

令和4年度
「熊本の学び推進プラン」
「熊本の学び」アクションプロジェクト
取組事例集



令和5年（2023年）2月
熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

—事例の探し方—

次ページ以降の「掲載校一覧」の各掲載校の「タイトル」をクリックしますと、その該当ページに移動します。

令和4年度「熊本の学び推進プラン」事例集 掲載校一覧					
章	内容	ページ	管内等	学校名等	タイトル
教職		p1	宇城	美里町立中央中学校	図書館教育の充実
			玉名	和水町立三加和小学校 和水町立三加和中学校	小中が連携した、義務教育9年間を通じた児童生徒の育成
			山鹿市	山鹿市立菊鹿中学校	シンプルな学力指標サイクルを基本にしたカリキュラム・マネジメントの取組


タイトルをクリック

該当ページへ移動

第2章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

図書館教育の充実
 ~美里町立中央中学校~

○授業につながる資料等の掲示
○学校図書館司書と連携した授業づくり



取組に関する写真資料等

【図書館前の掲示物】
生徒の作文や授業に関する資料が掲示されています。

本校図書館前には、新聞閲覧コーナーの他、「授業につながる資料」や「情報・メディアの利活用の資料」、「国語科思考の地図」等を掲示しています。それらの資料は、授業の中で生徒が課題を自力解決するため活用しています。

また、第3学年国語科「俳句の可能性 俳句を作って楽しもう」の授業では、作句法や歳時記・季語集などの本を学校図書館司書が提供し、授業支援を行いました。図書館司書も授業者と連携しながら、目指す生徒像として「自らの課題を知り進んで学ぶ生徒」の育成を図っています。

図書館教育の充実に向けて、美里町立砥用中学校や学校図書館司書と連携した取組を行っています。

章と内容

タイトル
学校名

取組の
キーワード

取組の詳細や、取組による子供の姿、学校や授業の様子など



今年度は、全94事例を掲載しています。どこかに、あなたが探している授業づくりや特色ある取組の参考となるヒントが!?

令和4年度「熊本の学び推進プラン」事例集 掲載校一覧

章	内容	ページ	管内等	学校名等	タイトル	
第2章 カリキュラムマネジメントの推進に関する事例	教職員による連携・協働	p1	宇城	美里町立中央中学校	図書館教育の充実	
			玉名	和水町立三加和小学校 和水町立三加和中学校	小中が連携した、義務教育9年間を通じた児童生徒の育成	
		p2	山鹿市	山鹿市立菊鹿中学校	シンプルな学力指標サイクルを基本にしたカリキュラム・マネジメントの取組	
			菊池	合志市立西合志南小学校 合志市立西合志東小学校 合志市立西合志南中学校	中1ギャップを軽減し、小学校から中学校への移行をスムーズにする取組	
		p3	上益城	甲佐町立龍野小学校	児童の実態に基づいた、全職員による道徳カリキュラム・マネジメントの推進	
			芦北	芦北町立佐敷中学校	「佐中プライド」の醸成、互いを認め合い、高め合う集団の育成を目指した取組	
		p4	球磨	球磨村立一勝地小学校	全職員参加のプロジェクトチームで取り組むグランドデザイン作成の取組	
			球磨	錦町立錦中学校	生徒のモチベーションアップのための「校内吊り下げバナー」活用取組	
		p5	天草	天草市立牛深東中学校	重点的に育成を目指す資質・能力を全生徒・全職員で共有した取組	
		五者で共有	p6	宇城	宇城市立豊川小学校	地域・保護者（豊川地区連絡協議会）の力を最大限活用した取組
	山鹿市			山鹿市立三岳小学校	郷土を愛する心を育む学習の充実（三岳を好きになる）を図る取組	
	p7		阿蘇	阿蘇市立内牧小学校	地域や保護者と連携した児童会・委員会活動の充実	
			阿蘇	南阿蘇村立白水小学校	五者連携カリキュラムの作成・実施に向けた取組	
	p8		八代	氷川町立竜北西部小学校 氷川町立竜北東小学校 氷川町立竜北中学校	五者連携によるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な取組	
	定期的な振り返り	p9	宇城	宇土市立鶴城中学校	総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメント	
			山鹿市	山鹿市立米野岳中学校	「学習の5本柱」を設定し、振り返りながら実践目標を決めていく取組	
		p10	阿蘇	産山村立産山学園	「熊本の学び」を自校化した「『産山学園』授業実践4つのチェックリスト+2」の取組	
			芦北	水俣市立久木野小学校	学校の課題解決に向けた確実な取組を行うための「熟議」の実施	
	第3章	単元デザイン	p11	宇城	宇土市立宇土東小学校	単元のゴールの姿に近づくための学習活動の設定と学習評価の工夫
				阿蘇	南小国町立市原小学校	主体的な学びにつながる4Cを意識した単元デザインによる授業実践の取組
導入の工夫		p12	玉名	長洲町立六栄小学校	子供の「わたしの問い」を軸にした授業展開	
			阿蘇	小国町立小国小学校	問題を工夫することで子供の問いを生み、学ぶ必然性をもたせる取組	

第3章 学びを深める授業改善に関する事例	展開の工夫	p13	山鹿市	山鹿市立菊鹿小学校	児童が学び合いを充実させるために、「対話」を取り入れた取組	
			阿蘇	西原村立山西小学校	対話的な学びにおける、児童の自己有用感を高める取組	
		p14	上益城	山都町立中島小学校	学習リーダーが中心となって、主体的に課題解決に向かう授業の取組	
			天草	天草市立牛深東小学校	児童一人一人が自分にとって最適な方法を選択しながら自力解決を図る取組	
	終末の工夫	p15	玉名	荒尾市立荒尾海陽中学校	生徒が授業のゴールを見据え、自分の言葉で「まとめ」を書くことができる取組	
			山鹿市	山鹿市立山鹿中学校	「つながり」を意識したまとめと振り返りで、学びに向かう意欲を高める取組	
		p16	菊池	菊陽町立菊陽西小学校	「振り返り」の視点を学校で共有して共通実践する取組	
			阿蘇	南小国町立中原小学校	学習支援ソフトを活用した、自らの学びを自覚できる「振り返り」の工夫	
	ICTの効果的な活用	p17	玉名	荒尾市立緑ヶ丘小学校	ICT端末の機能を使い、学習活動をより効果的に行う学習方の工夫	
			山鹿市	山鹿市立八幡小学校	一人一人の学びの時間を確保し、話し合い活動へつなげるための取組	
		p18	山鹿市	山鹿市立鹿北小学校	子供たちが主体的に【動きのこつ】を身に付けるためのICT端末の活用	
			山鹿市	山鹿市立鹿北小学校	子供たちが、自分の考えを明確にし、主体的・対話的に学び続けるための取組	
		p19	山鹿市	山鹿市立めのだけ小学校	自分の意見をもつことができるようにするためのICTの効果的な活用	
			山鹿市	山鹿市立米野岳中学校	道徳の授業において、考えをICT端末で共有し、話し合い活動に活用する取組	
		p20	阿蘇	小国町立小国小学校	「自分たちにできる防災」について、ICTを活用して児童が主体的に考える取組	
		P21	八代	氷川町立竜北東小学校	学びにつながるICT機器の効果的な活用に向けた学校全体の取組	
		p22	芦北	水俣市立水俣第一中学校	ICTの効果的な活用による学びを深める取組	
			球磨	球磨村立一勝地小学校	学習支援ソフトを活用し、課題解決を進める学習の取組	
	第4章 学力向上検証改善サイクル	課題克服に向けた授業デザイン	p23	山鹿市	山鹿市立鹿本小学校	学校総体で課題を分析し、継続指導によって改善を図る授業
				上益城	嘉島町立嘉島東小学校 嘉島町立嘉島西小学校 嘉島町立嘉島中学校	単元のゴールに向けた学習過程や内容を共有する単元シートの活用
			p24	芦北	水俣市立水俣第二中学校	生徒同士の「やり取り」を通して、単元のゴール達成を目指す取組
				天草	天草市立稜南中学校	熊本県学力・学習状況調査の結果等を活用した授業（単元）デザインの取組
サイクルの学校化		p25	宇城	宇土市立走潟小学校	職員全員でPDCAサイクルを共有し、互いに支援、見届けができる取組	
			玉名	長洲町立長洲中学校	諸調査の結果を基に、基礎学力を保障する取組	
p26	菊池	大津町立大津中学校	県学調等の結果から、個別指導や補充学習を充実させる取組			

ルに関する事例	サイクルの学校化	p26	八代	八代市立代陽小学校	アンケートの実施による、共通実践事項の定着状況を把握するための取組
		p27	球磨	人吉市立東間小学校	全国学力・学習状況調査結果での子供の解答状況に学ぶ指導法改善の取組
			天草	天草市立本渡南小学校	「能動的に学び続ける力」を身につけるための「授業改善サイクル」実践
	ザインの子	p28	宇城	美里町立砥用小学校	単元導入時に、児童とやり取りをしながら単元の学習計画を立てる取組
第5章 子供たちの学習習慣形成を促す取組に関する事例	家庭学習	p29	山鹿市	山鹿市立平小城小学校	家庭学習記録カードを活用した学びの自主性を伸ばすための取組
			上益城	山都町立矢部中学校	「家庭学習の計画づくり（矢部プランニングタイム）・自主学習（自学）」の取組
	p30	宇城	宇城市立河江小学校	1人1台端末を有効活用し、授業と家庭学習をリンクさせる取組	
		玉名	南関町立南関第二小学校	学びの主体性や持続性を確保するためにICT端末を活用した取組	
	p31	山鹿市	山鹿市立鹿北中学校	ICT端末を活用し、自主的な学習態度の育成と基礎基本の定着を目指した家庭学習	
		山鹿市	山鹿市立米野岳中学校	ICT端末を活用し、家庭と学校が連携して課題に取り組む工夫	
	p32	阿蘇	高森町立高森中央小学校	授業と家庭学習の連動を図るデジタルノートを活用した取組	
		阿蘇	西原村立山西小学校	授業と授業をつなぐ家庭学習	
	p33	阿蘇	高森町立高森東学園義務教育学校	高森ふるさと学（総合的な学習の時間）における、ICTを活用した授業と家庭での学びの連動	
		上益城	益城町立飯野小学校	学習内容の定着を図るために、1人1台端末を活用した家庭学習の取組	
	p34	八代	八代市立文政小学校	ICTを活用した家庭学習で既習内容の定着を図り、授業につなげる取組	
		八代	氷川町立竜北西部小学校	ICT端末を活用した家庭学習の推進を図る取組	
	p35	八代	八代市立第一中学校	ICTを活用した県学調の「確かめドリル」等の活用と自主学習の取組	
		芦北	芦北町立佐敷小学校	ICTを活用した家庭学習ノートを共有する取組	
	p36	球磨	あさぎり町立岡原小学校	ICT端末持ち帰りによるドリル学習の取組	
天草		天草市立河浦小学校	ICT端末を活用した「学びをつなげる家庭学習」への取組		

令和4年度「熊本の学び」アクションプロジェクト事例集 掲載校一覧

章	内容	ページ	管内等	学校名等	タイトル
柱1	個に応じた指導	p37	山鹿市	山鹿市立山鹿小学校	算数科における少人数指導の拡充及び習熟度別指導の取組
			山鹿市	山鹿市立鹿本中学校	習熟度に応じた問題を活用し、個に応じた指導につなげる取組
		p38	天草	苓北町立坂瀬川小学校	担任と担任外教師の複数体制による基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組

柱1 誰一人取り残さない学びの保障に関する事例	計書読み	p38	上益城	甲佐町立甲佐中学校	学習への意欲付けと基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組
	定着確認の徹底	p39	宇城	宇城市立不知火中学校	学力向上への意欲を高め、学習内容の定着を図るGU大会（学力アップ大会）の取組
			玉名	玉名市立築山小学校	「学力充実タイム」と「家庭学習」を連動させ、学習内容の定着を図る取組
		p40	山鹿市	山鹿市立三玉小学校	放課後の学習時間や学力充実タイムを活用して学習内容の定着を図る取組
			菊池	菊池市立旭志中学校	学校総体とした、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組
		p41	阿蘇	阿蘇市立一の宮小学校	異学年交流を通じた学力充実タイムにおける基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組
			芦北	水俣市立水俣第二小学校	繰り返しの学習による学習内容の定着を図る取組
	取組読解力向上の	p42	菊池	菊池市立隈府小学校	読み取ったことを可視化して、互いの考えを伝え合う取組
			八代	八代市立植柳小学校	授業における学び合いの充実を図りながら、読解力向上を目指す取組
	学びの保障	p43	玉名	和水町立三加和小学校	学習のルールや学び方の共通理解と基礎学力の定着を目指す取組
			山鹿市	山鹿市立大道小学校	学びを支える「大道ベーシック」の取組
p44		球磨	水上村立岩野小学校	高学年が低学年のICT活用スキル育成をサポートする取組	
柱2 教員一人一人の授業力向上に関する事例	強化助言の	p45	玉名	玉名教育事務所	具体的な例を示し、各学校での授業改善の活性化を図る取組
	習慣化授業観察の	P45	芦北	芦北町立内野小学校	校長による授業観察での学びを、教職員向けの便りで全職員に広げる取組
		p46	球磨	あさぎり町立須恵小学校	管理職による授業参観の際の参観シート活用の取組
	校内研修内容の重点化	p46	宇城	宇土市立鶴城中学校	定期テスト問題の改善を通して、指導と評価の一体化と授業改善を図る取組
		p47	山鹿市	山鹿市立鹿本中学校	誰一人取り残さない授業づくりを目指した校内研究の取組
			菊池	合志市立西合志中央小学校	学年部会ごとの授業研究会による研究授業の機会の確保
		p48	阿蘇	南阿蘇村立南阿蘇中学校	校内研修の「授業を変える」部会による、教師の指導力向上を目指した取組
			上益城	御船町立御船中学校	教師の指導力向上を図る校内研究（授業研究会）の取組
		p49	八代	八代市立八代小学校	「八代小学力向上プラン」に基づいた授業実践の取組
			球磨	球磨教育事務所	授業力向上を図るためのインターバル研修による授業改善の取組
p50	天草	上天草市立中南小学校	共通実践事項の確実な実施のための校内研修の取組		
	教育センター	熊本県立教育センター	各学校の実態や課題に応じた校内研修内容の重点化のための教職員向け学校支援の取組（スクールサポート）		

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

図書館教育の充実 ～美里町立中央中学校～

- 授業につながる資料等の掲示
- 学校図書館司書と連携した授業づくり



【図書館前の掲示物】

生徒の作文や授業に関する資料が掲示されています。

本校図書館前には、新聞閲覧コーナーの他、「授業につながる資料」や「情報・メディアの利活用の資料」、「国語科思考の地図」等を掲示しています。それらの資料は、授業の中で生徒が課題を自力解決するため活用しています。

また、第3学年国語科「俳句の可能性 俳句を作って楽しもう」の授業では、作句法や歳時記・季語集などの本を学校図書館司書が提供し、授業支援を行いました。図書館司書も授業者と連携しながら、目指す生徒像として「自らの課題を知り進んで学ぶ生徒」の育成を図っています。

図書館教育の充実に向けて、美里町立砥用中学校や学校図書館司書と連携した取組を行っています。

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの思いを描く】実践例

小中が連携した、義務教育9年間を通じた児童生徒の育成 ～和水町立三加和小学校・三加和中学校～

- 小中一貫教育のテーマや小中学校での同じ目標の設定
- 小中合同での学習活動の実施



【小中合同の行事で中学生と小学生が会話をしている様子】



【中学生が小学生に読み聞かせをしている様子】

三加和小学校・三加和中学校では、「自他の良さを認め、互いに学び合い高め合える児童生徒の育成」と小中一貫教育のテーマを設定し、義務教育9年間を通じた児童生徒の育成を図っています。

学習面でも、小中一貫した学習を推進するために、小中学校で同様の目標を立て、共通した授業の進め方を意識して、授業を行っています。また、中・高学年を中心に中学校の職員が小学校に通年で乗り入れ授業を行っています。

また、小中合同で運動会を実施したり、中学生が小学生に読み聞かせを行ったり、小学6年生が生徒会選挙に参加をしたりするなど、小中学校のスムーズな連携ができるようにしています。小中合同で活動する場面では、小学生が中学生の頑張りを見て学んだり、小学生が中学生から声かけをもらったりすることで自信につながりました。また、小学生のときにお世話になった先生から継続して見守られ、声を掛けてもらうことで、中学生も安心して学校生活を送ることができています。小学生にとっても日頃から中学校に触れる機会が多くあり、自分の将来の姿を見通して学校生活を送っています。

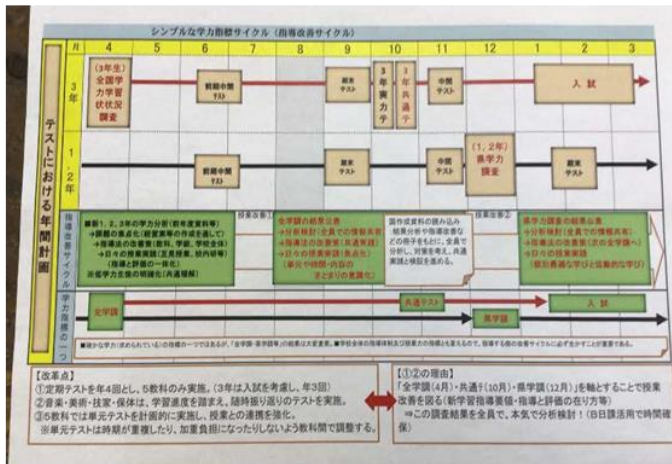
第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

シンプルな学力指標サイクルを基本にしたカリキュラム・マネジメントの取組 ～山鹿市立菊鹿中学校～

○シンプルな学力指標サイクルの作成

○全学調や県学調を軸に据えたテストにおける年間指導計画の作成と活用



【シンプルな学力指標サイクルより抜粋
「テストにおける年間指導計画」】

次年度の学力充実に向けた見通しを、12月の企画会で検討し、「シンプルな学力指標サイクル」として全職員に提示しています。

テストにおける年間指導計画では、全学調と県共通テスト及び県学調を軸に据え、定期テストの回数や実施教科などを工夫しています。5教科では、単元テストの充実を進め、定期テスト重視の評価観から単元やまとまりごとの評価を充実させる取組を目指しています。

全学調や県学調は、全職員で分析結果と共通課題及び実践事項を確認して授業改善に取り組んでいます。

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

中1ギャップを軽減し、小学校から中学校への移行をスムーズにする取組 ～合志市立西合志南中学校区（西合志南小・西合志東小・西合志南中）～

○中学校区（2小・1中）での小中一貫教育目標の統一

○特別支援教育の視点からの共通実践事項の設定

○中学校区での学習面や生活面での共通実践、児童会・生徒会の合同での活動

西南中・授業の心得

- ◇授業の準備をして待つ
(2分前着席、予習や復習、チャイム黙想)
- ◇爽やかな挨拶・返事
(起立『はいっ!』、気をつけ、お願いします、『お願いします!』(礼)、着席)
- ◇立腰、進んで発表
(進んで相談・質問、お互いに学び合う)

やれば伸びる! 納めれば伸びる!

【学習面：授業の実践】

【生活面：無音・無言掃除】

【児童会・生徒会合同取組】

【特別支援学級の研修会】

特別支援教育の視点では、3校の特別支援教育コーディネーターが中心となり、9年間を見通した共通の視点と取組を設定し、実践しています。

学習面では、授業規律に関する「授業の心得」を実態に合わせて設定したり、協働する子供たちの育成のために「グループでの話し合いの仕方」のシートを作成したりしています。

生活面では、「無音・無言清掃」の実施や、学年の実態に合わせた「生活ノート」の活用を行っています。

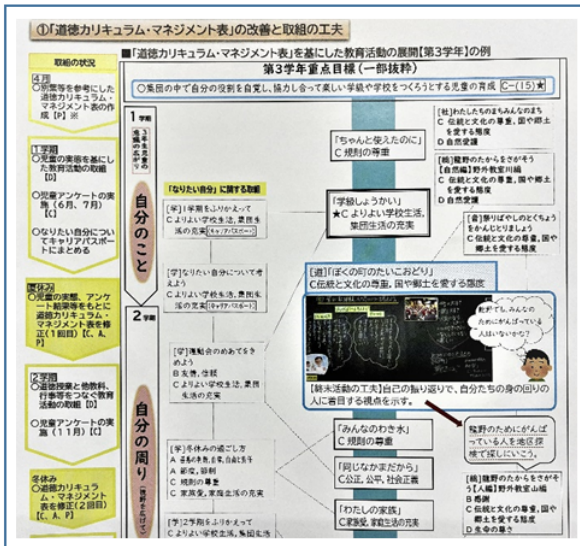
児童会・生徒会では、合同会議を行い、目標を決め、取組を進めています。

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供の姿を思い描く】実践例

児童の実態に基づいた、全職員による道徳カリキュラム・マネジメントの推進 ～甲佐町立龍野小学校～

- 児童の実態に基づいた学校全体の重点目標の設定と、それと連動した各学年の重点目標の設定
- 各教科、行事等との関連を図った道徳カリキュラム・マネジメント表の作成



【龍野小学校研究紀要より「『道徳カリキュラム・マネジメント表』の改善と取組の工夫」】

甲佐町立龍野小学校は、R3、R4年度に熊本県道徳教育研究推進校として、道徳教育の研究に取り組んでいます。

年度当初、児童の実態に基づき、目指す児童像を明らかにし、全職員で共有します。また、学校全体の道徳教育の重点目標を設定し、それを踏まえて、各学年の重点目標を設定しています。

次に、各学年部職員を中心に体験活動や他教科との関連付けを工夫し、全ての教育活動と道徳教育とのつながりを明確にした、龍野小独自の道徳カリキュラム・マネジメント表を作成しています。

さらに、道徳カリキュラム・マネジメント表を、年度の途中で全職員で見直し、教育活動と人的資源、地域資源をつなげながら効果的に改善を図っています。

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子どもたちの姿を思い描く】実践例

「佐中プライド」の醸成、互いを認め合い、高め合える集団の育成を目指した取組 ～芦北町立佐敷中学校～

- スクールプライドの醸成による、「考動（考えて行動する）」できる生徒の育成と互いを認め合う集団づくり
- 生徒の良さを見つけ賞賛し、自己肯定感を高める活動（教職員が生徒の良さを認める「Good Job カード」、生徒同士が良さを認め合う「Happy letter」）



佐敷中学校の生徒は、「佐中プライド」を意識して生活しています。「誰かのために」と考えて行動する姿は、学年が上がるごとにたくましさを増しています。この姿勢こそ学力向上の基本であると考え、全職員でこの「佐中プライド」を醸成するため、前向きで賞賛を基本とした支援や言葉かけを行っています。それらの取組は、仲間の良さを認め合い、包み込むインクルージョンの学習環境づくりにつながっています。

普段の授業で、主体的に意見を交換する学び合いの姿をたくさん見かけます。これからも職員の賞賛と前向きな声かけで、この姿を守っていきたくて考えています。



Good Jobカードは、見つけたときに書くことを基本とし、研修の始まりにも5分間書く時間を設けている。
生徒への思いが詰まったカードは1年間で300枚を超す。

第2章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

全職員参加のプロジェクトチームで取り組むグランドデザイン作成の取組 ～球磨村立一勝地小学校～

○職員一人一人が同じ方向を向き、主体的に学校経営に参画を目指した全職員参加のプロジェクトチームによるグランドデザインの作成と見直し



【資質・能力チームの話合いの様子】

令和3年度の12月末から2月まで、毎週火曜日の放課後に、20分間ほど活動時間を設定しました。

「資質・能力チーム」「教育課程チーム」「働き方チーム」の3つのプロジェクトチームを編成し、各種学力・学習状況調査やアンケート調査の結果をもとに、各チームから出された改善案を全職員で検討し、グランドデザインを作成しました。

一度作成して終わりではなく、状況に応じて、常にグランドデザインを見直しながら進めています。

第2章 【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

生徒のモチベーションアップのための「校内吊り下げバナー」活用の取組 ～錦町立錦中学校～

○生徒の学習意欲の向上につなげる「吊り下げバナー」の掲示



【教室廊下前に掲示された吊り下げバナー】

「吊り下げバナー」は、当初、定期テストに向けて生徒のモチベーションアップのために始めました。

デザインを美術科教員が担当し、拡大カラー印刷したものを教室前の廊下等にも掲示しました。

「吊り下げバナー」は、視覚的にもわかりやすく、学校中が定期テストに向けて頑張ろうという雰囲気をつくることができました。

現在では、人権旬間、体育祭、文化祭等の学校行事でも生徒が制作した「吊り下げバナー」を活用しています。

第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

重点的に育成を目指す資質・能力を全生徒・全職員で共有した取組 ～天草市立牛深東中学校～

- 学校教育目標「夢実現に向けて実行する生徒の育成 ～『居場所と出番』のある学校づくりを通して～」をもとにした、育成を目指す3つの力の設定
- 全職員、全生徒、保護者等での共有

3つの力の育成に向けた具体的実践事項

<自立>実行する力（知識・技能等）
○気づき、考え、実行する生徒会活動の充実
○主体的な実践につながる健康教育の充実
○自他の命を守る安全教育の推進
○安心して学べる教育環境づくり

<創造>学び続ける力（思考力・判断力等）
○学び続ける力の育成に向けた授業づくり
○自ら計画を立てて取り組む家庭学習の推進
○探究を重視した総合的な学習の時間の展開
○自己の将来につながるキャリア教育の充実

<共働>認め合う力（学びに向かう力等）
○認め合い高め合う学級集団づくり
○全ての教育活動を通じた人権教育の推進
○「考え、議論する道徳」への質的変換
○一人一人の実態に応じた特別支援教育の充実
○いじめ・不登校の未然防止と初期対応

学校教育目標の具現化のために、重点的に育成を目指す資質・能力（3つの力 自立：実行する力、創造：学び続ける力、共働：認め合う力）を具体的実践事項と関連付け、ベクトルを合わせた教育活動を推進しています。

また、全校集会や始業式・終業式等における校長や職員の講話等においても、これら3つの力と関連付けた内容を位置付け、生徒への意識化を図っています。

このような育成を目指す3つの力を意識した日常的な取組は、生徒の主体性や学ぶ意欲を高めるとともに、夢実現に向けて実行しようとする態度の育成にもつながってきています。

第2章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

地域・保護者（豊川地区連絡協議会）の力を最大限活用した取組 ～宇城市立豊川小学校～

- 豊川地区連絡協議会による地域や学校の情報共有・改善に向けた取組
- 本校の情報共有や情報発信、課題改善など、学校運営に対する協力体制づくりを学校・保護者がともに推進



【豊川地区連絡協議会の様子】

各種団体長（約30名）で構成される豊川地区連絡協議会は、半世紀以上も続く地域主体の組織で、近年は豊川小学校で月に1回開催されています。

5月に校長がランドデザインや年間行事等について説明を行い、目指す子供の姿等を共有しています。各種団体への協力依頼や子供を取り巻く課題等に関する協議を重ねながら、「地域とともにある学校」を目指した取組を進めています。

令和2年度には通学路のカラー塗装、令和3年度には「犯罪の起きにくい町づくり」で本協議会が表彰されました。本年度もトマト狩りやシジミ採り、地域の伝統芸能（東松崎底井樋太鼓や豊年餅つき踊り）体験等で地域と学校の連携を図っています。

第2章 【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

郷土を愛する心を育む学習の充実（三岳を好きになる）を図る取組 ～山鹿市立三岳小学校～

- 学校支援協議会での目指す子供の姿の五者共有
- 子供たちが、校区の歴史・自然・人を知り、郷土を愛する心を育む学習の充実



子供たちが、名人に教えてもらいながら、しその葉を茎からはずす作業をしています。

【地域の名人と梅干しづくりを行う様子】

三岳小学校は、148年の歴史に幕をおろし今年度で閉校を迎えることになりました。

4月に、学校支援協議会を開催し、「三岳を愛する心を持ち続ける子供」を目指す子供の姿として五者で共有し、郷土を愛する心を育む学習の充実を図っています。

5月に、1～3年生は、地域の方が育てている梅の収穫体験を行いました。その後、地域の梅干しづくり名人をGTとして招き、梅干しや梅ジュースの作り方について教えていただきました。

10月には、2年生が「地域の人へ感謝の気持ちを伝えよう」というテーマの学級会で、お礼の会を開きました。お世話になった地域の人々を招待し、感謝の手紙を渡したり、一緒に作った梅干しを食べたりしました。お世話になった地域の人々とのよりよいつながりができた交流会となりました。

第2章

【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

地域や保護者と連携した児童会・委員会活動の充実 ～阿蘇市立内牧小学校～

- 児童会の各委員会で目指す学校像や学校の課題を地域や保護者と共有
- 積極的・主体的な委員会活動の推進



児童会スローガン
「全力、協力、未来に向かう楽しい内牧小学校」

【児童会活動の中間報告会の様子】

児童の「自分たちの学校をよりよくする」意欲と実践力を育むため、全職員が関わる仕組みを整えながら、児童会活動（「いきいきプロジェクト」）の充実を図っています。

児童会活動の中間報告会では、地域の方々をゲストティーチャーとして招待し、取組に関する助言や励ましの言葉をいただくことで、児童が主体的に学校づくりに関わろうとする態度や自己有用感を高めることをねらいとしています。

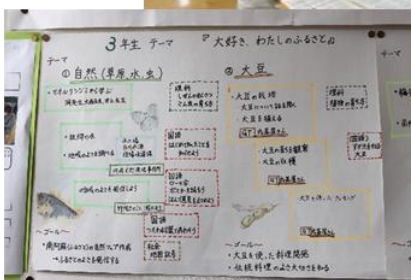
今後も児童会活動の取組について、全校児童や地域・家庭等へも積極的に情報を発信・共有し、児童の主体性・協働性・創造性を高めていきたいと考えています。

第2章

【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

五者連携カリキュラムの作成・実施に向けた取組 ～南阿蘇村立白水小学校～

- 生活科・総合的な学習の時間を中心とした五者連携カリキュラムの作成と共有化



【五者連携カリキュラム（下）と五者での検討の様子】

生活科・総合的な学習の時間を中心に五者連携カリキュラムを作成しました。五者連携カリキュラムとは、「活動、身に付けさせたい資質及び能力、それを育成できる教科単元、保護者や地域、行政とのかかわり」を明記したものです。

この作成にあたっては、学校運営協議会を中心に五者で作成し、地域や保護者と検討し、児童と共有しています。

本年度は作成中で、修正を加えながら、作成する予定です。このカリキュラムを整備することで、五者連携を明らかにし、地域や自分に誇りをもつ児童の育成を目指します。

第2章

【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

五者連携によるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な取組 ～氷川町立竜北西部小学校・竜北東小学校・竜北中学校～

- 子供と地域がつながり、ふるさとを理解し、郷土愛を育む「CS（コミュニティ・スクール）の日」の取組
- 竜北中学校区拡大学校運営協議会（拡大CS）による「オータム交竜会（中学校2年生による小学生へ向けた学習）」の開催



事前学習会

CSの日の様子



中学校2年生による小学生へ向けた学習



CS委員全員による熟議

竜北中学校区では、「15の春を輝かせるために」というテーマのもと、「CS（コミュニティ・スクール）の日」の取組を行っている。

竜北中学校区拡大CS（竜北西部小学校・竜北東小学校・竜北中学校）では、「オータム交竜会（中学校2年生による小学生へ向けた学習）」を11月の第一土曜日に行っており、それに向けてCSが主体となり、五者が連携した活動を行っています。

特に今年度は、子供委員を加え、五者からなるCS委員で熟議を積み重ね、取組を進めていきます。

中学生は、氷川町の歴史・自然・ひと・もの・暮らしについて自ら学習するとともに、CS委員との事前学習会において、小学生に「何を」「どのように」伝えるとよいか協議しました。

「CSの日」には、中学生が小学校を訪れ、小学生に向けて「オータム交竜会（中学校2年生による小学生へ向けた学習）」を行っています。

オータム交竜会では、小学生たちが、中学生の話を熱心に聴くとともに、質問したり、感想を述べたりする姿がありました。

中学生は、これらの取組を通して、地域の素晴らしさ、地域の方の有難さを改めて感じ、大好きなふるさとを大切にしたいという思いを深めることができました。

CS委員全員による熟議では、自分の思いを堂々と伝える子供委員の姿がありました。

第2章

【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメント ～宇土市立鶴城中学校～

- 学校全体での「育成を目指す資質・能力」の共有と定期的なアンケート実施による実態把握
- 総合的な学習の時間を中核とした学校教育目標の実現



【部会での話し合いの様子】
部会では、学校の取組が「育成を目指す資質・能力」につながっているか、成果と課題を出し合っています。

学校が育成を目指す資質・能力（「理由や根拠を明確にして、表現・行動する力」「課題の解決に向けて、見通しを持って、主体的に粘り強く取り組む力」「まわりの様子から、気づき・感じ、瞬時に動く力」「互いのよさを生かし、仲間や地域に貢献する力」）を学校全体で共有し、それらを向上させるために総合的な学習の時間を中核とし取り組んでいます。

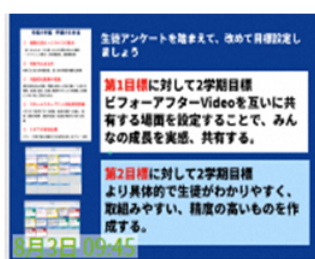
学年部会や教科部会の中で、総合的な学習の時間や学校生活での生徒の姿とアンケートの結果等を基に、取組の成果と課題を出し合っています。生徒が主体的に取り組むことができる総合的な学習の時間の内容や各教科等との関連を含めた年間指導計画の改善に取り組んでいます。

第2章

【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

「学習の5本柱」を設定し、振り返りながら実践目標を決めていく取組 ～山鹿市立米野岳中学校～

- 教師の授業づくりの主となる5つの視点で構成された「学習の5本柱」を意識した授業づくり



【ある職員の前学期目標カード】



【学習の5本柱（右上）と5本柱に沿った授業研究会を実施し発表している様子（左下）】

令和4年度 学習の5本柱

- ① 授業の流れ・シラバスの提示
・統一されたカードを使っての1時間の流れの確認。
・「シラバス」の明示（単元開始時、授業開始時）
- ② めあてとまとめ
めあてとまとめの整合性、まとめの時間の確実な確保
- ③ 対話的な授業の実施
資料を読み込む時間、問題に集中して取り組む一人学びの時間、生徒と生徒・生徒と教師のやりとりの時間を1時間にバランスよく取り入れる。
- ④ スモールステップによる形成的評価
小テストや単元テストの実施、生徒の発言への返し、実技・技能の習得・定着の度合いを図る評価の小刻みな実施。
- ⑤ ICTの有効活用
タブレットや電子黒板の授業内での効果的な活用、UDフォント活用

学校全体の学力向上を目指し、年度初めの校内研修で「学習の5本柱」を作成・共通理解し、学習の5本柱を意識した授業づくりを行うようにしています。

学期の初めに、職員がそれぞれ5本柱の中でも「何を中心に授業実践していきたいか」の目標を立て、それぞれの研究授業で実践し、それに対する振り返りを行いました。

教師の5本柱の実践について、学期末にタブレットを活用し生徒からアンケートを取り、その内容を教師が共有し、学期ごとに実践目標を決めています。研究授業や授業研究会においても、5本柱の内容を中心とした学習構想案を作成し、その振り返りを行いながら、授業力の向上を目指しています。

第2章

【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

「熊本の学び」を自校化した「『産山学園』授業実践4つのチェックリスト+2」の取組

～産山村立産山学園～

○子供たちが「主体的」に学び、考えを深めるための授業づくりや授業参観の視点「4つのチェックリストと2つの視点」の設定と実践

「産山学園」授業実践4つのチェックリスト+2（熊本の学びの自校化）振り返り

番号	観点	チェックリスト (子供の姿)	評価	1学期の振り返りと2学期に向けて
1	単元ゴールの姿	(子供たちは)単元終了時の姿を共有しているか。	3. 3	□単元のデザイン ○単元はじめにゴールの姿を共有できた○単元をデザインし△単元のゴールが教室や板書に見えないことがある。 ●単元のゴールをもっと明確にして、共有する。●目標と計画を共有し、見直しをもって取り組む。●単元で学んだことが実生活で
2	導入(う)	(子供たちは)「なぜ」「おそろく」など、疑問や予想をもったり、つぶやいたりして意欲をもって学習に取り組んでいる。	3. 3	□開いたつぶやきを引き出す工夫 □子供の言葉でめあてを△めあての設定が教師主導の場合のみみられる。△子供から引き出す工夫を工夫する。●わくわくして取り組めるような導入●子供たちから引き出せるようにする。
3	展開(ぶ・や)	(子供たちは)「やってみよう」「なるほど」「きつと」など、挑戦したり納得したりして個人やペア、グループ等で学習に取り組んでいる。	3. 5	□書く活動の工夫 □思考ツールの効果的活用 ○ワークシートや思考ツールの工夫で書くことが苦手な子供で、子供の意欲にもつながった。△予想や仮説を確かめる工夫 ●目的、場面、状況を設定し、1つの課題について1分の会 ●考えはあるが、根拠をもたせる。●「や」の時間を充実させる
4	終末(ま)	(子供たちは)「分かった」「できた」「もっとやってみよう」等、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めるために学習に取り組んでいる。	3. 0	□子供の言葉を生かしたまとめ □自らの学びや自己の定着 ○子供の発言を活用してまとめることができた。△ふりかえり ●まとめる内容を充実させ、点検の回数を増やす。●まとめでいきたい。●視点にそったふりかえり。●時間配分を考えた
*	ICT機器の活用	(子供たちは)ICTの活用により、学ぶ意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。	3. 0	□ICTの効果的活用 ○ICTを活用することで、学びが深まりつつある。OPPや ○子供のスキルも上がっている。△子供のPCを特別教室に ●画像を有効に使う。●共有できる場面を設定する。●ロイ
	板書の工夫	(子供たちは)板書を基に学習の流れを振り返っている。	3. 2	□学習過程が分かるように整理された板書の工夫 ○子供の言葉で作り上げる板書を意識した。○授業の流れを ●子供の言葉を引き出していく。●整理した板書。●子供の ●考えを比較して違いを見つけるような板書。

研究テーマに沿った共通実践事項に取り組むことができるように、年に2回、全職員で授業実践を振り返っています。

5段階評価を行い、成果と課題を記入し、さらに次学期や次年度に向けて取り組みたいことを書き、どんな意見が出たのか、校内研究通信で共有し、目指す子供の姿に近づくことができるような授業に取り組んでいます。

このチェックシートは、個人で見えるところに掲示し、日頃から共通実践事項を意識して、学期末には授業者が振り返りを行うなど、授業改善に取り組むことができるようにしています。

また、管理職の授業参観やお互いの授業を見せ合う「ミニ見参観」でもこのチェックリストを活用しています。

第2章

【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

学校の課題解決に向けた確実な取組を行うための「熟議」の実施 ～水俣市立久木野小学校～

- 学校教育目標の努力実践事項と子供たちに身に付けさせたい資質・能力の視点から、取組の成果と課題について協議する「熟議」
- 「ミニ熟議」による教育活動の進捗状況の確認

【熟議の様子と熟議のシート】



熟議のシートは、縦軸が「子供たちに身に付けさせたい資質・能力」、横軸が、「学校教育目標の努力実践事項」から成っています。

毎月1回の職員会議において、「熟議」と称し、教育活動の中や児童の様子などで評価できる点、改善されたこと、課題や気づき等を色分けした付箋に書き出しています。付箋は、「学校教育目標の努力実践事項」と「子供たちに身に付けさせたい資質・能力」の2つの軸から作成した「熟議のシート」に貼りながら整理しています。出された課題については、誰がいつまでにするのかを明確にしながら取組の方向を協議し、共通理解を図り、実践しています。

また、毎週末の「ミニ熟議」で、取組の進捗状況を確認し、課題解決へ向けた確実な取組と教育活動の更なる充実へとつなげています。

第3章 【「学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザインの工夫】実践例

単元のゴールの姿に近づくための学習活動の設定と学習評価の工夫 ～宇土市立宇土東小学校～

- 単元で学んだことを総動員して解決するような学習活動の設定
- ルーブリック等を用いた評価

【5年算数科「比べ方を考えよう」の単元における「単元を通した学習課題」とルーブリック等の例】

「単元を通した学習課題」
ガソリン45Lで630km走る自動車Aと、ガソリン30Lで480km走る自動車Bは、どちらが環境にやさしい（燃費がよい）自動車だろうか。

評価等	観点（思考・判断・表現）
A評価	単位量あたりの大きさを考えたり、90Lにそろえるなど、他の基準量を用いて考えたりしながら、複数の視点から、どちらが燃費がよいのかを図や式等を使って説明している。
B評価	自分なりの基準量を用いて、1つの視点でどちらが燃費がよいのかを図や式等を使って説明している。
B評価に達しない児童への手立て	教師と一緒に「○○あたりの大きさ」を数直線を使いながら考えさせる。

宇土東小学校では、単元の終末時において、単元で学んだことを総動員して解決するような、日常生活につながる課題を「単元を通した学習課題」と表現し、それにチャレンジします。その時間の評価は、児童のノートやレポート等の記述、作品等からルーブリック等をもとに評価を行います。

複数の教師で評価を行うことによって、評価の質が高まるとともに、教師自身の指導の改善にもつながる相乗効果が図られています。

評価後は、評価結果を児童に伝え、次の学習にどのように生かすかなどのアドバイスも行っています。

第3章 【「学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザインの工夫】実践例

主体的な学びにつながる4Cを意識した単元デザインによる授業実践の取組 ～南小国町立市原小学校～

- 4C（※）を意識した学習活動の計画
- 教師と児童によるゴールの姿や学習の流れの共有

※4Cとは

- 【Critical Thinking（「なぜ・本当にそうなのか」と問いかけ、納得のいく結論に到達する力）】
- 【Creativity（新たな価値を生み出す豊かな創造性）】
- 【Communication（自分の考えを他人に分かりやすく、効率的に伝える能力）】
- 【Collaboration（多様な集団の中で、協働できる能力）】である。

過程	時間	指導計画と評価計画（5時間取扱い、本時2/5） 学習活動	評価の観点等
1	1	○学習の計画と「単元のゴールの姿」を確かめる。	【思①】（観察・ノート）
2	2	○被減数が100の暗算の仕方を考え、説明する。 【本時】	★【思①】（観察・ノート） ○100の数の構成に着目して、被減数が100の暗算による計算の仕方を考え、説明している。 ★【思②】 ○主体的に問題解決に取り組むとともに、日常における暗算のよさを振り返り、学習に生かそうとしている。
3	3	○たして100になる2つの数の特徴を考える。	
3	4	○2位数どうしの加減法の暗算の仕方を考え、説明する。	【思①】（観察・ノート） ○数の構成に着目して、2位数どうし加減法の暗算の計算の仕方を工夫して考え、説明している。
4	5	○2位数どうし加減法を暗算を用いて計算する。	★【知①】（観察・ノート） ○2位数どうしの加減法を暗算を用いて計算することができる。

ゴールの姿をイメージし、4Cを意識して学習活動を計画しています。一単位の学習活動で、指導者が児童に付けた力をしっかりと意識しながら取り組むことができます。

また、グループの対話活動において、指導者や児童が4Cの視点を意識することで、聞くポイント・話すポイントが明確になり、児童の発言に多様性や深まりが生まれます。

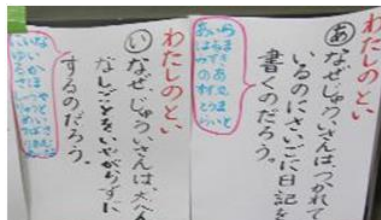
【4Cを意識した学習活動の計画】

第3章

【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

子供の「わたしの問い」を軸にした授業展開 ～長洲町立六栄小学校（2年国語科）～

- 2年国語科の授業における、「わたしの問い」を軸にした授業展開
（第一次：「わたしの問い」をもち、一人学びで解決
第二次：一人学びで解決できない問いについてのグループや全体での話し合い）



今日、一人学びをして「わたしの問い」の答えは、ペンギンの段落の「ひとあんしんです。」のところだと思いました。早くみんなの問いの答えを聞きたいです。（振り返りでの発言）



【「わたしの問い」を軸にした授業の様子】

子供一人一人の「なぜ」「おそらく」から生まれた「わたしの問い」を解決しながら学びを深めていく取組を行っています。

単元のゴールを「（見学旅行の時）1年生に獣医さんのステキを紹介しよう」と設定し子供の興味・関心を高めています。

展開では、子供の「なぜ獣医さんは、大変な仕事を嫌がらずにするのだろうか」という問いを、獣医さんのステキを見つける活動を通して解決していきます。

子供たちは、読みが深まるごとに問いの答えを更新していくことができました。

一人一人が「わたしの問い」をもつことで、自分事として考え、学びに向かう力を高めることができています。

第3章

【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

問題を工夫することで子供の問いを生み、学ぶ必然性をもたせる取組 ～小国町立小国小学校（4年算数科）～

- 4年算数科「計算の決まり」の学習における、子供が問いを生み、学ぶ必然性をもつような問題の工夫



【問題の工夫】

「 $8 \times \square + 2 \times \square$ 」という式の「□」に選んだ数字を代入して計算します。答えはいつも「□」に入る数の10倍になっています。

4年生算数科「計算の決まり」の学習では、導入で、「早く計算できたら勝ちゲーム」を行い、その中で「答えがいつも□に入る数の10倍になっている問題」を出題しました。

最初は必死に筆算をしながら答えを求めていた子供たちも「3を入れたら30」「7を入れたら70」というきまりを発見し、大喜びでした。そして、「何でいつも10倍になるの」という問いをもつようになり、秘密を探っていました。

解決に向け、式とドット図をつなげて話し合う中で分配法則の仕組みを明らかにするだけでなく、子供たち自ら、分配法則が使える式づくりを行うことができました。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

児童が学び合いを充実させるために、「対話」を取り入れた取組 ～山鹿市立菊鹿小学校～

○対話のパターン化（「あ、そうか」「その考えいいね」「なるほど」「今度はこうしてみよう」など）を軸にした、対話のスキルの向上



【対話のパターン化を使って対話を行う児童】

児童の対話で学びが深まるために、学習展開の中で対話のパターン化を効果的に取り入れています。

導入では、前時の振り返りをペアで行います。その後、課題や内容に応じてペアやグループでの対話を行います。特に考えたいことやみんなで学びを深めたいことなどは、全員が体を中心に向けて対話を行います。

また、どの対話の時も、互いの考えに反応することや「〇〇さんと似ている・・・」と意見をつなぐこと、質問することなどを「学び合いスキル」として示し、対話のスキルを高めています。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

対話的な学びにおける、児童の自己有用感を高める取組 ～西原村立山西小学校～

- 「明確な目的のある対話活動の位置付け」をテーマにした授業改善
- 「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面」の単元や一単位時間での設定

【意見の異なるグループ同士による対話場面】



＜4年生算数＞
「角度」の授業で、解の求め方によりグループに分かれて対話を行い、「引き算グループ」が「足し算グループ」に説明している場面です。

児童のノートから見られる考えの深まり

<p>本時のノート</p> <p>180°(直線)より大きい角度は、どのようにして求めるとよいのだろうか。</p> <p>※式や言葉を使って考えよう。 ※図にいろいろかきこんでいいです。</p> <p>180 + 13 = 253 △ 角度②は、253°</p>	<p>対話</p>	<p>次時のノート</p> <p>270°(直線)より大きい角度は、どのようにして求めるとよいのだろうか。</p> <p>※式や言葉を使って考えよう。 ※図にいろいろかきこんでいいです。</p> <p>360 - 36 = 324 △ 角度②は、324°</p> <p>270 + 54 = 324 △ 角度②は、324°</p> <p>180 + 144 = 324 △ 角度②は、324°</p> <p>引き算の考え方が付加されています。</p>
---	-----------	---

前時の終末に見出した問いを基に本時の学習を展開し、児童が考えを書く機会を設定しています。また、教師による「思考の見取り」や、必要に応じた「既習内容に関する補充指導」を行った上で、意図的なグルーピングを行っています。

この積み重ねにより、「思考の強化・付加・修正を図るための対話」など、明確な目的のある対話活動を位置付けることができるようになりました。

このような対話活動を通して、児童からは、学び合うよさを実感する発言や自己有用感の高まりにつながる発言が聞かれています。また、ノートの記述からは、児童自身の考えの深まりを見取ることができました。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

学習リーダーが中心となって、主体的に課題解決に向かう授業の取組 ～山都町立中島小学校～

- 複式学級における、学習リーダーの進行表（「学習リーダー4.0」）の活用
- 学習リーダーが中心となって課題解決を行う授業

学習リーダー 4.0

- ①まずは 復習をします。OOさんお願いします。（※ノート見てOK!）
～前時のめあてとまとめを確認する。～
- ②なんだろうの「な」です。今日の課題を確認します。辻先生お願いします。
～今日の課題を確認する～
- ③ではめあてを立てましょう。みなさん どんなめあてを立てますか？
- ④今日のめあては「OO」でいいですか？ みなさんノート！ きましょう。
～黒板にめあてを書く～
- ⑤みなさん めあては書きましたか？ みんなで読みましょう。さん はい
- ⑥まずは見通し（予想）を立てます。みなさん どうやったら課題を解決できそうですか？
～黒板に予想を書く～

【学習リーダーの進行表「学習リーダー4.0」】



【複式学級の授業の様子】

複式学級の授業として、学年で指導過程をずらす「ずらし」と授業者が直接指導を行うために学年を移動する「わたり」があります。

中島小学校では直接指導の場面であっても、「学習リーダー4.0」の流れに沿って、授業は学習リーダーの進行で展開されます。

導入段階において授業者からの課題提示に子供たちが問いを発し、「めあて」が確認できた後は、一人学びの時間の設定や考えの共有・発表など、子供たちが協力し、主体的に課題解決に向かっています。

授業者は、子供たちの状況を把握し、多様な考え方が生まれるような問いかけや目標達成に向けた適切な支援を行っています。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

児童一人一人が自分にとって最適な方法を選択しながら自力解決を図る取組 ～天草市立牛深東小学校～

- 児童による自力解決法（6つの学び方）の選択とそれに応じた支援ポイントの提示



①教師に支援を求める【自力解決につまずき、教師の支援を選択した場合】
支援point: つまずきの具体については、児童本人から伝えさせるようにします。



②自分で解決する【誰からの支援も受けず、自力で解決することを選択した場合】
支援point: 過剰なヒントや支援をせず、解決を見守ることを大切にします。



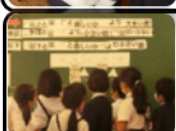
③友達と確認しあう【解決は図られたが疑問が生じているため、同じような状況にある児童や解決が図られた児童との対話を選択した場合】
支援point: 多様な学びへの柔軟な対応と形成的評価に心がけます。



④グループで話し合う【解決が図られたがまだ不安や疑問が生じているため、児童同士で確認したり、相違点を指摘したりすることを選択した場合】
支援point: 自分の意図にあったグループ化も選択であることを自覚させるようにします。



⑤全体での話し合い(練り上げ)の準備をする(考えの提示)【解決が図られ、考えに自信を持っているため、全体での話し合いに向けての準備を選択した場合】
支援point: 全体協議の場での、自分の考えの提示方法について検討するように働きかけます。



⑥全体での話し合い(練り上げ)の準備をする(対立・賛同の確認)【全体での話し合いに向けて、他の児童の解決状態や程度、相違点についての情報収集を選択した場合】
支援point: 解決内容を含め、全体での協議の進め方や深め方が話題となるように働きかけます。

第3章

【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

生徒が授業のゴールを見据え、自分の言葉で「まとめ」を書くことができる取組 ～荒尾市立荒尾海陽中学校～

- 授業冒頭での、「まとめ」の書き出し部分（リード文）の提示
- 授業終末での、「まとめ」の書き出し部分（リード文）以降の記述



【授業の様子】

板書には、授業冒頭から「まとめ」のリード文と、まとめのヒントとなるキーワード（黒板左側）が提示されています。

「めあて」の内容に対応した「まとめ」の書き出し部分までを授業の冒頭で提示することで、ゴールを見据えた授業の実現を図っています。この取組により、教師は「まとめ」から授業を構想するようになりました。

また、「まとめ」のリード文以降は生徒が自分で書くことにし、生徒のアウトプットの機会の保障にもつなげています。そのために、生徒がまとめを書くためのヒントとなる「キーワード」も授業冒頭から黒板に提示しています。

第3章

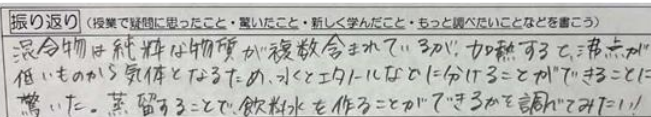
【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

「つながり」を意識したまとめと振り返りで、学びに向かう意欲を高める取組 ～山鹿市立山鹿中学校～

- 全教科等の授業でのまとめと振り返りの時間の確保
- 「つながり」を意識したまとめと振り返り
(生徒同士のつながり、日常生活とのつながり、家庭学習とのつながり 等)



【授業の終末で振り返りを発表する生徒（国語科）】



【生徒の振り返り（理科）】

学習したことと日常生活とをつなげたり、もっと理解を深めるために家庭学習とのつながり意識したりする生徒の姿も見られるようになりました。

生徒が成長を実感できる授業づくりに取り組む上で、自分の言葉で学習を振り返る力を高めることが課題と捉え、振り返りの視点について、職員で共通理解を図りました。各教科や単元で振り返りの視点を絞って生徒に提示して授業を行っています。

振り返ったことを発表し合うことで生徒たちは多様な考えに触れ、生徒同士がつながる機会となっています。

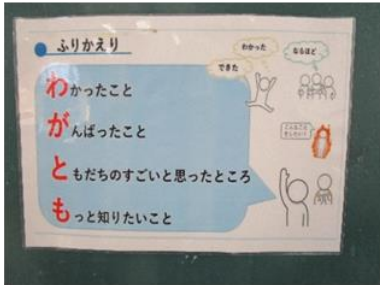
また、帰りの会にて一日の授業を通した振り返りを記入する時間を設け、家庭学習につなげる取組も行っています。

第3章

【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

「振り返り」の視点を学校で共有して共通実践する取組 ～菊陽町立菊陽西小学校～

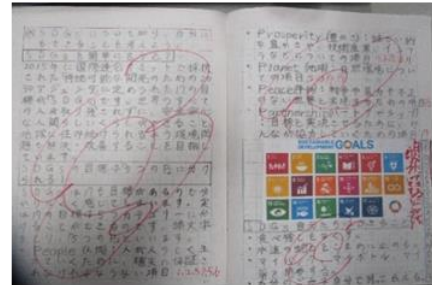
○児童が、「何ができるようになったか」「何ができなかったのか」を自覚し、次の学習や実生活につなぐ、「振り返りの視点『わ・が・と・も』」の共有と共通実践



【振り返り「わがとも」の掲示】



【振り返りを記述する様子】



【児童の自主学习ノート】

学校全体の共通理解・共通実践として、「わ・が・と・も」を用いて、「わかったこと」「がんばったこと」「ともだちのすごいと思ったところ」「もっと知りたいこと」の4つの視点で、授業の振り返りを行っています。

この取組を続けたことで、視点を意識して振り返ることができ、「疑問に思ったこと」や「もっと調べたい」と思ったことを、家庭学習で調べたり自主学习ノートにまとめたりするようになってきています。

第3章

【「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫】実践例

学習支援ソフトを活用した、自らの学びを自覚できる「振り返り」の工夫 ～南小国町立中原小学校～

○学校で設定した視点を基に、学習支援ソフトを活用した振り返りの実施

なかばる ふりかえりの視点

○学しゅうのおわりに、ふり返りしよう。

(書くこと)

- な ……なんでそうなったのか。(〇〇の学習を使ったら、△△ができた。)
- か ……わかったこと・わからなかったこと
- ば ……「はっ!そうか。」
〇〇さんの考えを聞いて、思ったこと
- る ……なるほど、次の学習につかえそうだ。

共有機能で友達の振り返りを把握

「振り返り」をタイピングでカードに直接入力するか、ノートに書いたものを写真に撮ってカードに貼り付けるかは、児童自身が選択しています。

学校で設定した「な・か・ば・る ふりかえりの視点」に沿って、振り返りを行っています。視点ごとにカードの色を分け、学習活動に応じて教師側から視点を指示したり、児童自身で視点を選んだりすることで、自らの学びを自覚できるように工夫しています。

また、学習支援ソフトの共有機能を活用し、他の友達の振り返りカードについても一覧で把握できるようにしています。

前時の振り返りと比較したり、カードの色でどのような振り返りの視点が多かったのかを把握したり、友達の書いた内容を基に自らの学びを客観的に見つめたりできています。

第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

ICT端末の機能を使い、学習活動をより効果的に行う学習方法の工夫 ～荒尾市立緑ヶ丘小学校～

- 学習支援ソフトを用いた、自分の考えを書き込んだり、操作したりする活動
- 学習支援ソフトを用いた、集団で学び合う活動



【一人学びの様子】



【互いの意見を交換する様子】



【考えを送信する子供たち】



【全体での共有】

一人学びでは、授業者が学習支援ソフトを使って児童に思考シートを送り、それに自分の考えを書き込んだり、操作活動をしたりします。グループ学びでは、互いの意見を端末の機能であるレーザーポインターや拡大・縮小を使いながら説明したり、班としての考えをまとめたりして学びの共有化を図ります。自分の考えに書き加えたり、書き直したりすることで学びの深化にもつながります。ノートを併用する場合は、考えを写真に撮り、授業者に送信します。それをモニターに映し、全体への共有化、一般化を図り、全員参加の授業をめざしています。

第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

一人一人の学びの時間を確保し、話し合い活動へつなげるための取組 ～山鹿市立八幡小学校～

- 本時のねらいに迫るための、主発問に関連する部分でのICTの活用



【ICTを活用した授業の様子】

子供たちに思考させる有効な手段としてICTを活用しています。国語の学習では、文章を手がかりに、挿絵について考える場面で活用しました。

- ①まず、一人一人を考える。
 - ②それをもとに、友だちと考える。
 - ③全体でさらに練りあげていく。
- という過程を大切にしました。

ICTを活用すると、視覚的に分かりやすいため、低学年の児童でも、自分の考えを説明しやすく、その後の深い学びへとつながっています。

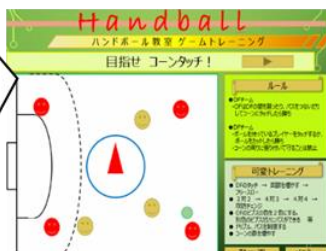
第3章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

子供たちが主体的に【動きのこつ】を身に付けるためのICT端末の活用 ～山鹿市立鹿北小学校～

○体育の授業における、教師の「目指す姿」、子供の「なりたい姿」を、【動きのこつ】としてICT端末に蓄積する取組

【ハンドボールの例】

デジタル教材等を児童のタブレットに送信する。
「動きのイメージをつかむ」「動きをフィードバックする」「比べる」等を繰り返せるようにする。



児童が動きのイメージを持つことができるように、【動きのこつ】をICT端末を活用して提示しています。

実際の活動を動画で記録保存し活用することで、児童自ら課題を持ち、練習や検証を重ねています。

また、友達や教師の助言を受けて再撮影した動画等は、「動きのこつ」として蓄積され、いつでも見返すことができます。

【マット運動の例】

児童が役割分担をして、【動きのこつ】の動画を作成する。

- ①演技者
- ②撮影
- ③補助
- ④観察

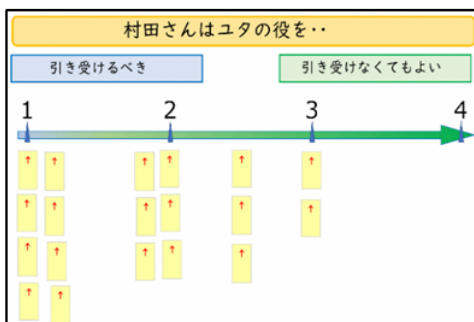


第3章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

子供たちが、自分の考えを明確にし、主体的・対話的に学び続けるための取組 ～山鹿市立鹿北小学校～

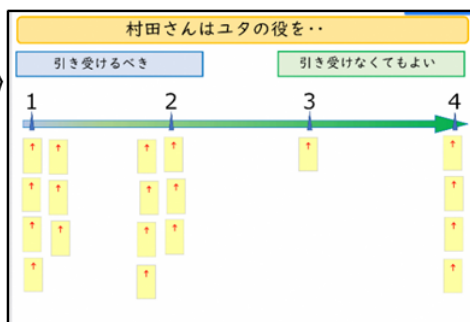
○自分の考えを明確にして課題解決を行うための、思考ツールの活用

【道徳の授業での例】



学習前、自分の考えに近い座標軸名前札を置く。

対話の中で意見の変容があった場合には、自分の考えに近い座標軸に名前札を動かす。



児童が自分の考えと近い座標軸に自分の名前札を置きます。自分の考えと違う児童と対話することで、課題が設定され、さらに対話を重ねています。

教師は、児童が自分の考えを再構成し、深い学びへと導くために、児童の意見をつなげる言葉かけをしています。

最後に、児童自ら「意思決定」を行い、考えをまとめます。画面を保存しておくことで、思考の流れを振り返ることができます。

第3章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

自分の意見をもつことができるようにするためのICTの効果的な活用 ～山鹿市立めのだけ小学校～

- 課題に対して、まずは自分で考え、自分の意見をしっかりとつことのできるようになるための学習支援ソフトの活用
- 話し合い活動をスムーズに行うための電子黒板の活用



【学習支援ソフトを活用する児童】

自分の考えを整理したり、意見としてまとめていくために、学習支援ソフト等を効果的に活用しています。

全員の意見を電子黒板に提示することで、友達と比較したり、相違点を見いだしたりするなど、その後の学び合いが深まります。出された意見を分類したり、友達の考えを基にさらに自分の考えを見直したりすることもできます。自分の意見を発表することに抵抗感がある児童でも、学習支援ソフトの活用により意見がしっかりまとまっているので、意見を発信することができるようになり自信が深まります。

第3章 【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

道徳の授業において、考えをICT端末で共有し、話し合い活動に活用する取組 ～山鹿市立米野岳中学校～

- 道徳科における、ICT端末を活用して、自分の考えを棒グラフや円グラフで表現する活動
- 自分の思いや考えを文章にして提出する活動



【考えのパーセンテージを表す棒グラフ】

【心情的パーセンテージを表す円グラフ】



【タブレットを用いての意見共有】
オンライン参加の生徒も意見を発表しています

道徳の授業では、「自分の意見を発表してください。」と教師に問われてもなかなか挙手をして発表できない生徒がいます。また、考えを持っているのに十分に反映されずに一部の生徒の意見だけで授業が展開されることがあります。

ICT端末を用いて数値やグラフで心情や、考え等を自分のグラフで視覚的に表現できるようにしています。その後全員の意見をICT端末で共有し、話し合い活動に取り組むようにすると、日頃発表ができない生徒も話し合い活動に少しずつ積極的に参加できるようになりました。また、自宅よりオンラインで授業に参加する生徒も授業に参加しやすくなっています。

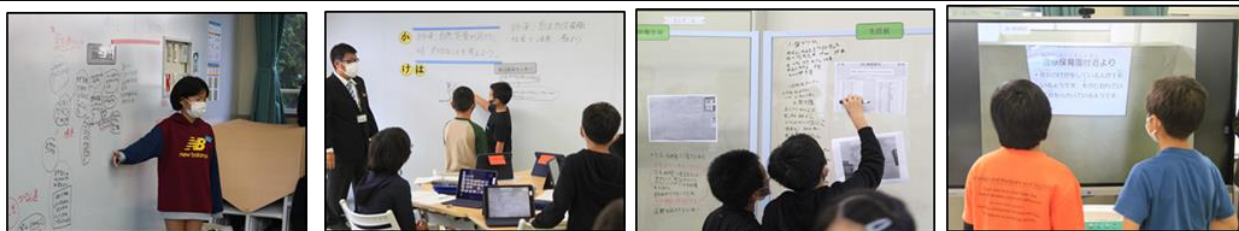
「自分たちにできる防災」について、ICTを活用して児童が主体的に考える取組 ～小国町立小国小学校～

○小国町「ICTを活用した防災の取組」に倣った、ドローンを活用した学習活動

4年生の社会科「地震からくらしを守る」の学習において、小国町にある「自主防災組織」を応用して実践しています。

小国町に見立てた校舎内で、教育用ドローンをプログラミングして飛ばしました。校舎内に設定した架空の災害情報をドローンで収集し、電子黒板に表示して情報を学級で共有しました。その情報をもとに班ごとに対応を考え、災害への対応を整理していきました。

その後、自分の班の対応とほかの班の対応との関連性を全体で話し合いました。最後に、電子黒板やタブレットを使い、自分や友達の学びの振り返りを行いました。



【4年生社会科「地震からくらしを守る」の授業の様子】

小国小学校には、児童が主体的・対話的に学びを進めることができる「アクティブ・ラーニングルーム」（電子黒板を設置）があり、小グループ等での話し合いに活用しています。

第3章

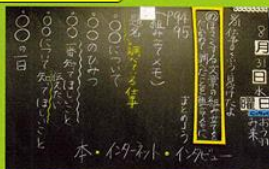
【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

学びにつながるICT機器の効果的な活用に向けた学校全体の取組 ～氷川町立竜北東小学校～

- 子供の学びにつながるICT機器の効果的な活用場面の選定と活用方法の実践
- 授業での効果的なICT機器活用を図るための校内研修の充実
- 基礎基本の定着を図るためのICT端末の活用

① 学びにつながる効果的な活用場面と効果的な活用方法

課題意識を持つ



着目した部分を焦点化する



事前にとったアンケート結果を提示し、学習課題へとつなげる。道徳(アンケート機能)

前時の板書を電子黒板に映し、学習内容を想起する。国語(プレゼンテーションソフト)

児童が着目した部分に印を付け、気付きを記録していく。理科(発表ノート)

記入した部分を合成することで共有を図る。社会(画像合成)

自分の考えを持つ



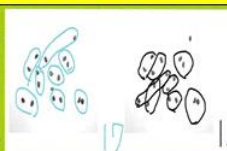
役割演技の対話の様子を動画で撮影し、動画を確認して気付きをまとめる。国語(動画撮影)

天気の変化を捉えるため、自分で撮影した2日分の動画を並べて、比較する。理科(動画比較)

自分がしたことについて、言葉をつなぎあわせて、文章を作っていく。国語(文字入力)

立式後、並べた10円玉の図に書き込みをし、買えるかどうか確かめる。算数(発表ノート)

自分の考えを説明する



効果的に説明するためにどの写真を使うか考え、相手意識を持って説明する。国語(スライドショー)

自分の考えの根拠となる部分を示しながら説明する。社会(発表ノート)

画面合成した画面を見せながら、お互いの考えを伝え合い、深める。理科(画像合成)

全体で発表する際に、電子黒板に提示し、説明する。他の意見と並べて提示し、違いに着目する。算数(画面一覧)

自分の解き方を紹介し合い、共通点や相違点を見つけ、考えを深める。算数(発表ノート)

② 授業での効果的なICT機器活用を図るための校内研修の充実



ICT支援員によるSKYMENU活用研修

OJTによる職員同士の学びの場



③ 基礎基本の定着を図るためのICT端末の活用



「タブレット学習タイム」の実施

音読の宿題を「デジタルノートアプリ」で記録し、提出

第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

ICTの効果的な活用による学びを深める取組 ～水俣市立水俣第一中学校～

- ICT端末を活用した授業での意見交流や課題解決
- ICT端末を活用した他校との交流、協働的な学び



【2年国語科「説得力のある提案をしよう」の授業の様子】

この授業では、プレゼンテーションソフトを活用して発表を行いました。原稿を表示している子や発表を録画している生徒など、班で協力しながら学びを深めることができました。

普段の授業からICT端末を活用しています。生徒が見方・考え方を文章で表現して、意見交流や課題解決に活用しています。

写真のように、画像や動画を交流して説明したり、課題解決したりして学びを広げたり深めたりしています。

また、オンライン配信を活用して、郷土の紹介をしたり、他校との意見交流をしたりして、学びを広げたり深めたりすることができました。特に修学旅行先である沖縄県の中学校と交流して、お互いの郷土のよさを紹介し、意見を交流することができました。

第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

学習支援ソフトを活用し、課題解決を進める学習の取組 ～球磨村立一勝地小学校～

- 課題解決に必要な資料の学習支援ソフト上への掲載
- 学習支援ソフト上に掲載された資料をもとにした、児童の考えの交流



【学習支援ソフト上に掲載された動画をもとに、意見交流を行う児童の様子】

算数科において、条件の異なる複数の地点の交通量を調べる学習で、学習支援ソフト上にアップされた各地点の交通量の実際の動画を活用しました。

各自の予想や見通しをもとに、動画を何度も確認したり、各地点の様子について動画を止めて確認したりするなど、児童は自分のペースで、学習を進めました。

また、自分のペースで、動画等の複数の資料をもとに納得のいくまで考えました。

このことにより、その後のグループでの協議でも、児童は自分の考えをもち、話し合うことができました。

第4章 【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】実践例

学校総体で課題を分析し、継続指導によって改善を図る授業 ～山鹿市立鹿本小学校～

○学校の課題である「読解力」と「書く力」の向上を図るための、「児童が自分の考えを言語化して表現する活動」の設定

【児童が自分の考えを言語化して表現する活動の様子】



「カード学習」に取り組む児童



ICTも活用して、友だち等に自分の考えを伝えたり、学んだことのまとめや振り返りを行ったりしています。

児童が自分の考えを言語化して表現できるよう、国語の授業の最初には漢字の読み書きや音読を、それ以外の教科では、学習に関わる言葉を用いたカード学習を行っています。

児童一人一人の思考を言葉にする機会を保障するため、以下の3点に取り組んでいます。

- ①学習内容を児童自身の言葉で表現したためあての設定
- ②課題解決に向けた自分の考えの言語化
- ③全教科での、ICTを活用して自分の考えを言語化し、それを表現する時間の設定

第4章 【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】実践例

単元のゴールに向けた学習過程や内容を共有する単元シートの活用 ～嘉島町立嘉島東小学校・嘉島西小学校・嘉島中学校～

○児童生徒が、見通しを持ちながら主体的に学ぶ姿を目指した「単元シート」の作成と活用
○単元のゴールに向けた学習過程や内容の児童生徒と教師による共有

【単元シートの例】

単元を通して考える学習課題（毎時間の学習の振り返りで、学びを記入しましょう。）

瀬戸内海に面した地域とそれ以外の地域では、どのような産業の違いが見られるのか調べ、まとめることができる

	1	「できた」「わかった」単元の学習課題につながる学びを振り返ろう。	新研究 p00	家庭学習とのつながり
	2	自然環境、人々の営み p192-p195	新研究 p00	
	3-4	都市と農村、交通網 p196-p200	新研究 p00	
	5	課題追求（レポート作成）	レポート 0月△	
	5	単元の学習課題に達するための時間		

「単元を通して考える学習課題」について本単元で学んだことを振り返り、書きましょう。

単元全体の振り返り

単元シートには、単元を通じた学習課題や内容が明記され、振り返りを記入できるようになっています。また、授業と関連した家庭学習の内容も示しています。

教師は、単元シートを作成することにより、単元のゴールをより意識するようになり、学習過程や授業内容の工夫を図っています。

児童生徒は、単元シートへの記入を通して、単元や学習の見通しが持てるようになり、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになりました。さらに、単元シートを家庭学習の計画づくりにも生かしています。

第4章 【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】実践例

生徒同士の「やり取り」を通して、単元のゴール達成を目指す取組 ～水俣市立水俣第二中学校（英語科）～

○生徒の「英語を話すことへの苦手意識」の改善に向けた、学習活動の工夫
（英語科「話すこと」における、単元のゴールの提示と、生徒同士のやり取りを通して、自分たちでゴール達成へ向けて取り組む活動）



英語を話すことに苦手意識を持つ生徒が多いため、ペアでのやり取りを多く設定しています。

自分たちのやり取りの様子を録画し、単元のゴールに向けて、課題を確認しています。



【英語科「話すこと」の授業の様子】

やり取りに慣れるために、授業冒頭では定期的にsmall talkを行っています。

『レストランで食事をしよう』では、生徒自身が自分の家族とハワイのレストランで食事をする設定にし、目的・場面・状況の確認を一齐に行いました。そこから生徒は店員役と客役に分かれ、やり取りを開始します。

中間指導では、1組の発表により、内容面での確認、言語面での確認を行うことでよりスムーズにやり取りができるようになりました。終末は自分たちのやり取りの様子をタブレット端末に録画し、単元のゴールにどの程度近づいたか確認するとともに、さらなる課題の把握を行うことで、課題克服に向け、工夫を加えていました。

第4章 【子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザイン】実践例

熊本県学力・学習状況調査の結果等を活用した授業（単元）デザインの取組 ～天草市立稜南中学校（3年数学科）～

○クラスの課題と、個人の課題を把握した上での単元デザイン及び授業改善への取組
（各種学力・学習状況調査の結果や過去問題の活用）



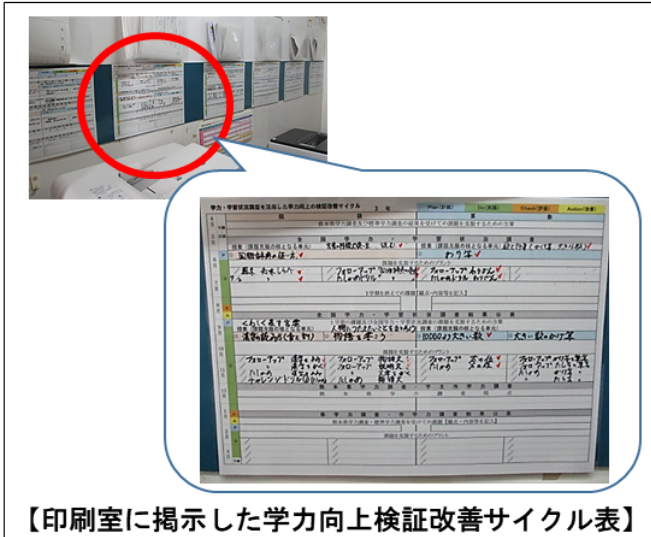
【生徒が自分の考えを伝え合う活動の様子】

前年度の熊本県学力・学習状況調査を、「出題のねらい」を基に分析した結果、図形領域における、「根拠を基にしながら筋道を立てて考えたり、証明したりする内容」に授業改善の余地があることが分かりました。授業の中で教師が根拠を問う場面を意図的に設定して、生徒が自らの考えをもち、その考えを伝え合う活動を重視するよう単元を構成しました。「どのような時でもいえるのか」と問い返しをしたり、条件を変えた図の提示等を行ったりして、数学的な推論における演繹の必要性の理解につなげています。検証問題を行い、事前よりも事後で正答率が向上するよう取り組んでいるところです。

第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

職員全員でPDCAサイクルを共有し、互いに支援、見届けができる取組 ～宇土市立走潟小学校～

- 学年ごとの学力向上検証改善サイクル表の作成
(振り返りと今後の取組について検討する時間を年間3回設定)
- 全職員での取組の内容、進捗状況の把握
(「課題克服の核となる単元」「課題を克服するためのプリント」を記入したサイクル表を印刷室に掲示するとともに3月中に進級学年の次年度計画案を作成)



【印刷室に掲示した学力向上検証改善サイクル表】

以下の手順で、学校全体で学力向上検証改善サイクルの確実な実施を行っています。

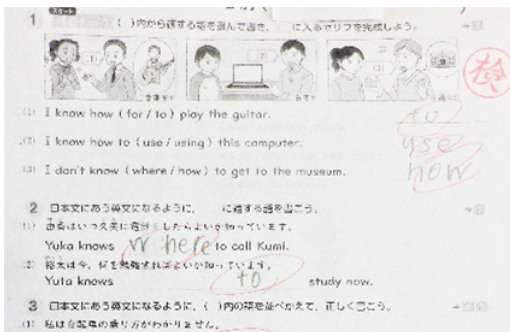
- 3月 県学力調査の結果分析を踏まえ、次年度の取組案を担任が作成。
- 4月 新担任が1学期の「課題克服の核となる単元」及び「克服するためのプリント」をサイクル表に記入。
- 8月 全学調結果分析と1学期の振り返り及び2学期分を同様に記入。
- 2月 県学調結果分析と2学期の振り返り及び3学期分を同様に記入。

印刷室に掲示することで、7学年部の職員もプリントの印刷など協力しやすくなっています。

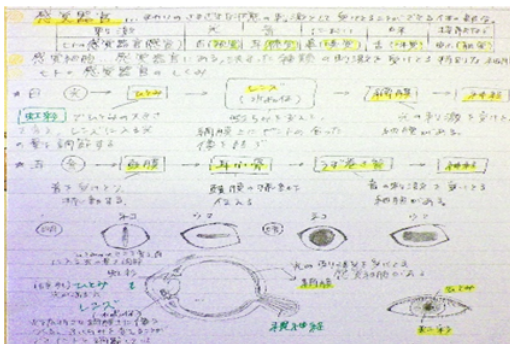
第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

諸調査の結果を基に、基礎学力を保障する取組 ～長洲町立長洲中学校～

- 読解力向上、基礎的・基本的な知識及び技能の定着に向けた読解力シートの活用
- 家庭学習の工夫



【読解力シートの例（英語科：授業内容の確認）】



【家庭学習の課題の例（理科：授業のまとめ）】

熊本県学力・学習状況調査と全国学力・学習状況調査の結果から、読解力と基礎的・基本的な知識及び技能の定着に課題があると考え、それらの克服に向けた取組を行っている。

朝自習では、読解力向上をねらいとして、これまでの読書に加え、読解力シートに取り組むことにしました。そのシートは、1回10分程度で取り組めるもので、約30回で計画しています。内容は、短めの文章を読み取り、選択肢から解答を選ぶというものです。また、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るため、曜日毎に教科を指定しています。数学では、学年の実態に応じたプリント、英語では、授業で使用するワークなどを使って学習しています。

家庭学習（自学）については、学力向上部会において、諸調査の結果を基に、その方法を検討しました。後期から、各学年の教員が担当する教科の課題を出し、毎回確認するようにしました。また、その課題の内容を定期テストに出題し、生徒の家庭学習への意欲向上を目指しています。

第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

県学調等の結果から、個別指導や補充学習を充実させる取組 ～ 大津町立大津中学校 ～

- 個人カルテをもとにした学習目標の設定（生徒）
- 個人の課題分析や解決の方策に基づいた生徒への助言（教師）
- 誰一人取り残さない学びの保障を図る特設の学力充実タイムの実施



【特設の「学力充実タイム」での協働解決場面】

生徒は、昨年度の結果が記載された個人カルテをもとに、今後の学習目標を教科ごとに設定し、家庭学習でも取り組みます。

教師は、熊本県学力・学習状況調査等の結果から、生徒の課題分析や解決のための方策を教科部会で検討し、生徒への助言を行っています。

また、今年度は、朝自習や放課後の時間をやりくりして、1回60分の学力充実タイムを5日間、特設で実施しています。学力充実タイムでは、課題が見られた問題や類似問題を扱い、生徒同士の協働解決を中心に学習を行うことで、更なる学力の向上に向けて取り組んでいます。

第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

アンケートの実施による、共通実践事項の定着状況を把握するための取組 ～ 八代市立代陽小学校 ～

- 「代陽っ子学習の約束10か条」の確実な定着を図るための「代陽っ子 学びのアンケート」の実施と分析結果の活用

代陽っ子 学びのアンケート

3 学期 高学年用 年 組 番 ()

★質問に当てはまる番号を、答えの欄に書きましょう。
[4:よくしている 3:している 2:あまりしていない 1:し]

番号	質問	
①	チャイムが鳴った時、席に着いて話をせずに待っていますか。	
②	学習の始まりや終わりのあいさつを、はっきり声に出していますか。	
③	「ぐうたびん」の姿勢で、正しく座って学習していますか。	
④	めあてやまもめは赤で囲み、ノートはていねいに書いていますか。	
⑤	指名されたら、「はいっ」とはっきり返事をしていますか。	
⑥	発表するときは、みんなに聞こえる声の大きさと最後まで話していますか。	
⑦	友達の発表は、友達の方を向いて最後まで聞いていますか。	
⑧	友達の発表には、拍手や相づちなどのお返しをしていますか。	
⑨	学習が終わったら、次の学習の準備をして休み時間をしていますか。	
⑩	自分の考えをもって（書いて）話し合いのぞんでいますか。	
⑪	グループでの話し合いや意見交換に、進んで参加していますか。	
⑫	おしゃべりをせずに、真剣に学習に取り組んでいますか。	
⑬	忘れ物をしないように心がけて、準備（時間割や筆箱の中身）をしていますか。	
⑭	家庭学習（宿題）は、確実に取り組んでいますか。	
⑮	えん筆は、毎日家でといて登録していますか。	

①～⑨は「約束10か条」に関すること

⑩～⑮は「主体的な学び」「学習準備」に関すること

県学力調査のi-checkの結果等からみえる児童の実態を基にして、「学びの土台となる共通実践事項」を作成し、4月に全職員で共通理解を図り、すべての学級で学習規律や家庭学習において一貫性のある指導を行っています。

取組の一つである「代陽っ子学習の約束10か条」については、授業準備や授業の心得の意識をそろえ、確実に定着につなげるために、児童・教師を対象とした年3回のアンケートの実施を学力向上検証改善サイクルに位置付けています。

アンケート実施後は、毎回、結果分析を詳細に行い、全職員で現状把握とその後の指導改善につなげています。

第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

全国学力・学習状況調査結果での子供の解答状況に学ぶ指導法改善の取組 ～人吉市立東間小学校～

- 誤答が多かった問題や無答の状況等からの「課題の見られる問題」の洗い出し
- 課題改善のための授業アイデア例の作成及び全職員での授業改善への取組

【「小問分析」の冊子より抜粋】

令和4年度全国学力・学習状況調査結果を受け、管理職及び研究主任等を中心に、小問の解答類型を基礎資料として、学校独自に「誤答分析」を行いました。

なぜ、児童はその問題で誤答をしたのか、その原因は何か、児童が誤答しないようにするための授業アイデア例を作成し、各教科の改善プランを立て、授業での実践につなげるようにしました。

第4章 【学力向上検証改善サイクルの学校化による取組】実践例

「能動的に学び続ける力」を身につけるための「授業改善サイクル」実践 ～天草市立本渡南小学校～

- OPDCAサイクルを繰り返しながらの授業改善
(Plan「学習構想」、Do「主体的・対話的で深い学び」、Check・Action「実践の評価・分析」)



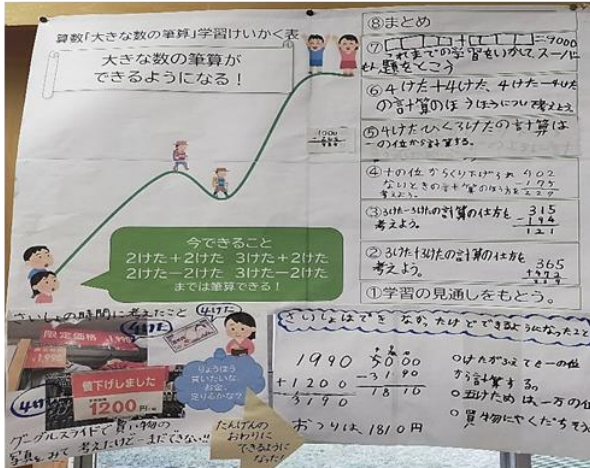
Planでは、主体的・対話的で深い学びの視点で児童の学びの姿の課題を整理し、それをもとに、児童の実現したい学びの姿を教師と児童で共有しています。共有の際は、本校独自のピクトグラム(アイコン)を使用しています。Doでは、教師はICT活用のねらいを明確にした授業実践を行い、児童はよりよく学ぶ方法を自己決定しながら、実現したい学びの姿を目指しています。Check・Actionでは、教師も児童も目標とした学びの姿に近づいているかどうかを振り返り、日々の授業実践や学びにつないでいます。これらの取組を繰り返しながら、「能動的に学び続ける力」の育成を図っています。

第4章

【子供たちが自らの学びをデザインできるようにする取組】実践例

単元導入時に、児童とやり取りをしながら単元の学習計画を立てる取組 ～美里町立砥用小学校～

- 電子黒板を活用し、児童とやり取りをしながら組み立てる学習計画の作成
- 「『知っていること、知らないこと。』を明らかにし、ゴールの姿に向かって、どのような手順で学習していくか」の共有



【教室に掲示された単元の学習計画表】

以下の手順で、児童とやり取りをしながら単元計画を作成しています。

- ①単元に関する既習事項を確認する
- ②単元で身に付けたい力やゴールの姿を共有する
- ③単元を通した学習課題を提示する
(教科・単元によっては単元の途中や終末に提示する場合もある)
- ④どのような手順で学習していくか、どのような方法・手段を使って調べていくかなど、教科の特性に応じて、学習計画を作成する
- ⑤児童がいつでも確認したり、学びを振り返ったりできるように、教室に掲示する

第5章 【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈子供編〉】実践例

家庭学習記録カードを活用した学びの自主性を伸ばすための取組 ～山鹿市立平小城小学校～

○「めざせ！！家庭学習名人」カードの活用

めざせ！！家庭学習名人

★3年生40分 4年生50分 5年生60分 6年生70分が目標です。宿題が早く終わったら、自分で考えて取り組みましょう。

10月17日(月曜日)		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字スギル	10分	
2 計算	10分	
3 国作り	10分	先生の印
4 自主学習	10分	自主学習の時間をはり、自分で考えて取り組みましょう。
5 音読	10分	
6	10分	目標時間達成
合計時間	50分	達成！
10月18日(火曜日)		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字	10分	
2 計算	10分	
3 自主学習	10分	先生の印
4 音読	10分	自主学習の時間をはり、自分で考えて取り組みましょう。
5	10分	
6	10分	目標時間達成
合計時間	50分	達成！
10月19日(水曜日)		
家での時間わり	取り組んだ時間	家の人の印
1 漢字	10分	
2 国作り	10分	
3 国作り	10分	先生の印
4 自主学習	10分	自主学習の時間をはり、自分で考えて取り組みましょう。
5 音読	10分	
6	10分	目標時間達成
合計時間	50分	達成！

平小城小学校では、放課後に学童を利用している児童が多くいるため、この実態を踏まえ、家庭以外でも自主的に学習に取り組むことができるよう、自分で時間割を立てる「めざせ！！家庭学習名人」カードを活用しています。各学年の目標時間は10分×学年＋10分としています。

1、2年生7名は担任が、3年生以上の児童16名は担任と管理職がカードや自学ノートで取組状況を把握し、コメント等を書いたり声かけをしたりしています。

この取組を通じて、児童の振り返りの欄に、家庭学習の時間の確保が上手になったり、自主学習の取組への達成感を感じたりしているといった感想がたくさん見られるようになってきています。

【めざせ！！家庭学習名人カード】

第5章 【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈子供編〉】実践例

「家庭学習の計画づくり(矢部プランニングタイム)・自主学習(自学)」の取組 ～山都町立矢部中学校～

○「小中自学内容表」を活用した自主学習の取組

○家庭学習の計画づくり(矢部プランニングタイム)の時間の設定

【小中自学内容表「矢部中」より一部抜粋】

《矢部中》

【プランニングタイム(25分間)の実施】

- ・ 帰りの会とあわせて行う。
- ・ プランニングシートに家庭学習の計画を書き込み、その計画に沿って、自主学習を進める。
- ・ 教師は全教室につき、家庭学習計画の確認と取り組み方の助言をする。また、教科担当者(国語、英語、数学)が各教室を回り、質問対応や補充指導をする。
- ・ 各学級で学習リーダーを選出し、生徒間で教え合いをする。

【自主学習の内容】

(1、2年生) 翌日の朝自習のテストに向けた学習と、授業の復習。

(3年生) 受験に向けた進路対策学習と、授業の復習。

【プランニングの様子】



【集会時の様子】



年度初めに自学の取り組み方について、町内の小中学校で作成した「小中自学内容表」(左表参照)を活用して説明し、生徒が系統性を理解して自学に取り組むことができるようにしています。

また、家庭学習の計画づくりの時間を帰りの会で設け、教師が「無理なく適度な量か」「個に応じた計画になっているか」などについて、助言することで、生徒が家庭学習をプランニングできるようにしています。

参考になる自学ノートを掲示したり、全校集会時に異学年で自学ノートを見せ合ったりしています。さらに、中学生の自学ノートは、出身小学校にも掲示しています。

生徒は、毎日どのような家庭学習を行うかを考え、意欲的に取り組んでいます。

第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

1人1台端末を有効活用し、授業と家庭学習をリンクさせる取組 ～宇城市立河江小学校～

- 学習支援ソフトを利用したつまづきの多い問題の分析と家庭学習の課題の作成
- 1人1台端末を活用した家庭学習の送信と提出

単元別	熊本県学力・学			
5年				
①整数と小数のしくみをまとめよう (整数と小数)	□24	5年¥H24¥1(4).pdf		
②直方体や立方体のかまの表し方を考えよう (直方体や立方体の体積)	□24	5年¥H24¥3(2).pdf	□24	5年¥H
	□26	5年¥H26¥5(5).pdf	□27	5年¥H
	□28	5年¥H28¥5(3).pdf	□29	5年¥H
③変わり方を調べよう(1) (比例)				
④かけ算の世界を広げよう (小数のかけ算)	□24	5年¥H24¥1(1).pdf	□25	5年¥H
	□27	5年¥H27¥1(1).pdf	□28	5年¥H
	□30	5年¥H30¥1(1).pdf		
⑤わり算の世界を広げよう (小数のわり算)	□24	5年¥H24¥1(2).pdf	□24	5年¥H
	□25	5年¥H25¥6年H25¥1(1).pdf	□26	5年¥H
	□27	5年¥H27¥1(2).pdf	□28	5年¥H
	□29	5年¥H29¥1(2).pdf	□29	5年¥H

【河江小学校問題バンクより抜粋】
※熊本県学力・学習状況調査(ゆうチャレンジ)の問題は、H30年度までのものは、自由に活用することができます。

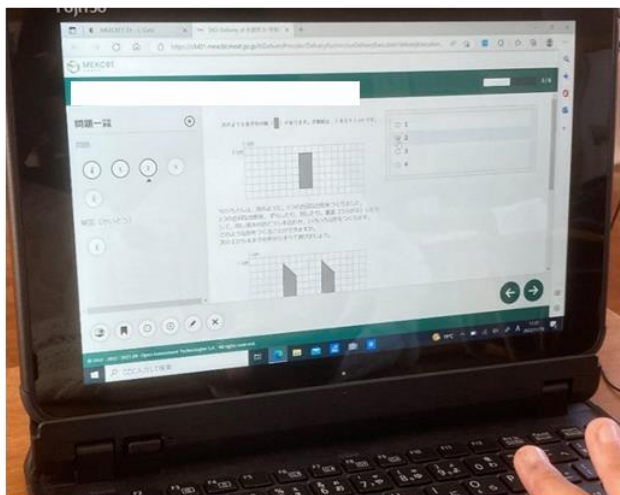
- P：授業日の朝、児童から送信された解答データを確認し、間違いが多かった問題を授業で扱う時間を計画します。
- D：授業で学び直し、再度定着確認します。また、全学調や県学調の問題バンク(左図：教員作)の中から関連する問題を教師が指定し、児童にアクセスさせ、取り組ませるようにします。
- C：放課後、児童のつまづきが多かった問題を児童の解答一覧から分析し、家庭学習のデータを作成し児童の端末に送信します。単元導入前の場合は、予習課題としてデータを送信することもあります。
- A：児童は各自、家庭で課題に取り組み、終了した段階でデータを提出します。

第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

学びの主体性や持続性を確保するためにICT端末を活用した取組 ～南関町立南関第二小学校～

■ MEXCBTやデジタルドリルを活用した課題の選択



【MEXCBTを活用して、課題を選択し、それに取り組む様子】

MEXCBTやデジタルドリルを活用し、教員が課題を一斉配信したり、児童が自ら課題を選んで取り組んだりしています。教員は学習の定着を図るために、授業に関連した問題や、全国学力・学習状況調査の問題などを選んで配信しています。

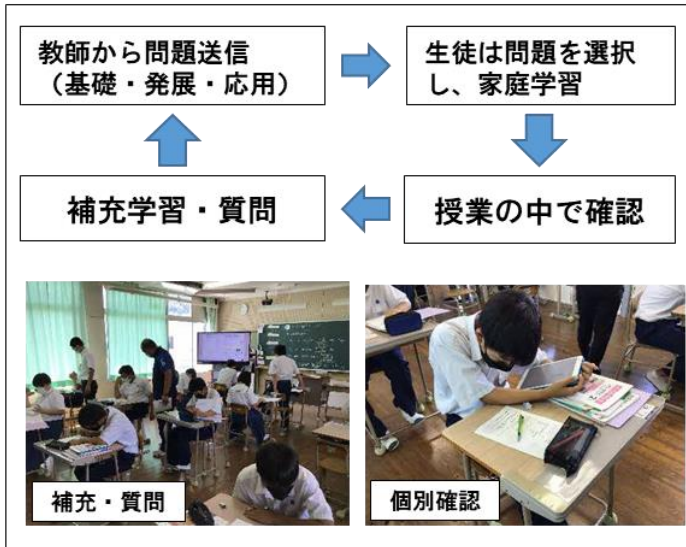
どの学年の問題にも取り組めるので、児童は既習事項の苦手な分野を遡って復習をすることもできました。

また、保護者が取組状況を確認する機能を利用することで、家庭と連携を図りながら、児童の学習習慣形成を促す取組の推進につながっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用し、自主的な学習態度の育成と基礎基本の定着を目指した家庭学習 ～山鹿市立鹿北中学校～

○熊本県学力・学習状況調査に類似した問題や個に応じた問題（基礎・発展）の自己選択



課題となっている家庭学習の習慣化、定着への課題解決のためにICT端末を活用し、問題を配信しています。生徒は自分に合った課題を選択し、学習しています。問題内容は基礎基本が中心ですが、熊本県学力調査の問題に類似したものも用意し、個に応じた内容を提供しています。

授業の中で確認するとともに、理解できなかった分野については、質問する時間の確保等を行い、生徒の学習に対する意欲の喚起につなげています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用し、家庭と学校が連携して課題に取り組む工夫 ～山鹿市立米野岳中学校～

○ICT端末を活用した家庭と学校が連携した家庭学習の実施
(家庭での家庭科の調理実習の実施)

【生徒が提出したカードとムービー】

夏休み課題 教科書のレシピから、日常食の調理をしてみよう (教科書72p-73p 参考) 肉料理一品

調理中 (切る、焼く、味付け煮る) ムービー 高画質1分

料理名 豚の生姜焼き

レシピ検索 (ウェブカード貼り付けでもOK)

調理中

調理後の感想 味付けがうまくいったのでよかったし、家族が美味しいと言ってくれたので嬉しかったです

提出したカードは、ICT端末を活用して共有しています。

家庭科では、コロナ禍による感染症対策のため、調理実習が実施できない時期があったため、学校で基礎を学んだ後、家庭における調理実習の課題を作成しました。

生徒は、学校で調理の計画を立て、その調理中の動画を行程に沿って保護者の方や家族に撮影してもらいました。また、作った料理を食べた感想を書いてもらっています。学校では提出した動画等を全員で共有し、感想を発表しました。

家庭科以外でも、理科の自由研究、音楽や美術の鑑賞の課題、国語の感想文作成、保体の運動動画作成等にICT端末の機能を活用して家庭学習に利用しています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

授業と家庭学習の連動を図るデジタルノートを活用した取組 ～高森町立高森中央小学校（高学年）～

- デジタルノート活用による家庭での調査活動（調べ学習）の実施
- 家庭学習における情報の共有

10/26 (水曜日)

た 食生活の変化と輸入食品の関係を考えよう。

か 教科書116, 117ページ 「わかったこと」

・洋食を食べることも増えて、日本の食生活が変わってきていることがわかるけど、そのことで日本の食料生産にどんな影響があるのか

・小麦など大豆は600万トン近く輸入されている
・米は一番少ないが100万トン近く輸入されている
・一番輸入が少ないものと一番輸入が多いものでは、500万トンの差がある

・1960年代から2019年にかけて米の一人当たりの食べる量がすごく変わってきている。
・魚介料はあまり激しく変わっておらず、0.1キロカロリーしか減っていない

食品ロスの問題 ……日本の年間の食品廃棄量は約2531万トンでそのうちの約600万トンは売れ残りや食べ残しなど。

も 友達・全体の意見

食生活の変化
・和食→洋食中心に
・日本人の好み
・米の消費量…減る
・小麦・畜産物…増える

輸入食品
・洋食に使う食品が輸入された

食生活が洋食中心になったことで、輸入する食品が増えた

り 今日は和食から洋食中心になったことや養殖に使う食品が輸入されることを知りました。私は和食が好きなので少し残念でした。



【児童のデジタルノートの例と授業の様子】

デジタルノートを活用することで、調べた情報を資料や写真などと関連付けながらノートにまとめています。コメント機能を使って意見を交換したり、分からないことを教え合ったりしながら、家庭学習の時でも協働的に学び合っています。授業で友達と交流する場面では、デジタルノートを使うことで、自分が説明したい資料や写真などを拡大して提示したり、レーザーポイント機能を使いながら分かりやすく説明したりする姿が見られています。全体発表の場面でも、すぐにノートを電子黒板に投影できるので、円滑に授業を進行することができています。また、家庭で調査活動や情報共有を行っているので、授業では、学習課題解決の話合いの時間の確保ができ、深い学びを実現する手立てとなっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

授業と授業をつなぐ家庭学習 ～西原村立山西小学校～

- 体育科の器械運動における、授業と家庭学習でのICT端末の活用
(授業での自分の動きの動画撮影→家庭での課題分析→次の授業での解決)



【授業で撮影した動画から課題を分析する様子】

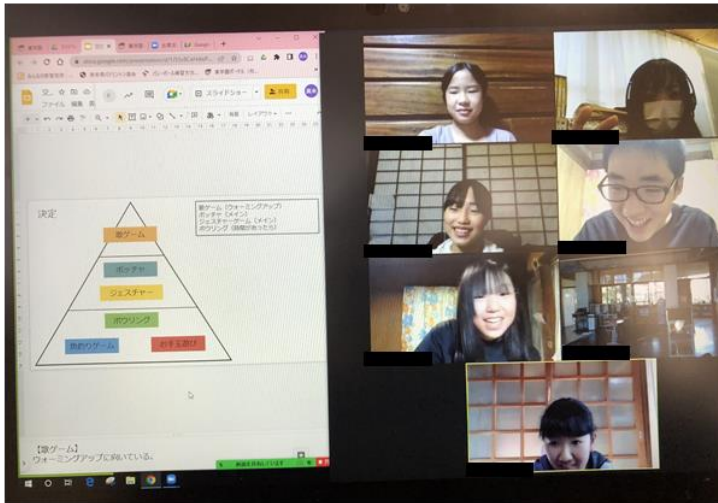
第2時では、取り組む技のポイントについて全体で確認し、練習しながら自分の動きを動画で記録します。家庭では、撮影した動画等を見て自己の動きを分析し、課題と解決の仕方をシートにまとめます。第3時では、導入において家庭でまとめたシートを基に個人のめあてをもちます。展開では、解決の仕方を意識しながら練習に取り組むようにします。家庭での学びにより、動きを分析する時間や授業での運動量の確保につながります。また、個別最適な学びを促すこともできます。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

高森ふるさと学（総合的な学習の時間）における、ICTを活用した授業と家庭での学びの連動

～高森町立高森東学園義務教育学校～

- デジタル化した単元計画や各種ワークシートを授業で活用し、クラウド上で管理
- クラウド上のデジタルシートを共有しながら、話し合いや協働編集の補充を家庭で行うオンライン会議



【家庭で行うオンライン会議の様子】

「持続可能な高森町」をテーマに5～9年生の異学年合同で5つのプロジェクトを立ち上げました。「福祉PJ」は、地域の方々との交流会を企画し、交流会で行うレクリエーションの内容について6つの提案を行いました。その中から実際に交流会で行う3つの内容にしぼるためにピラミッドチャートを活用し、議論しています。

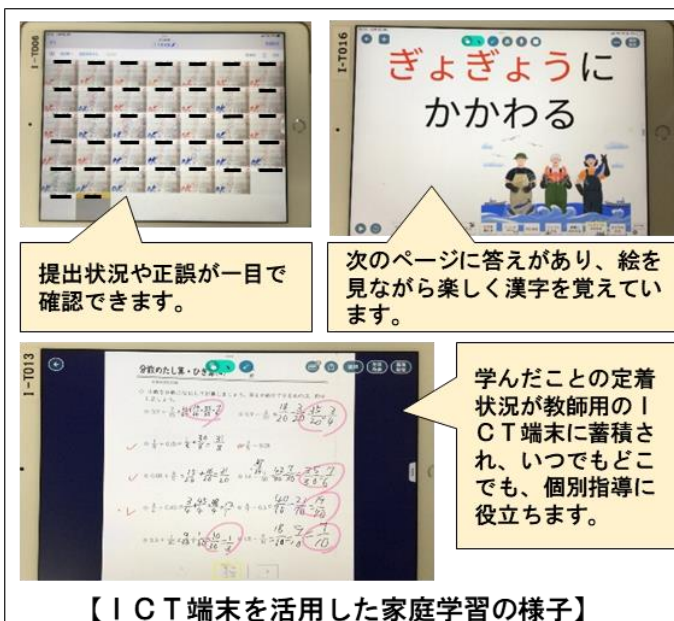
納得解を導き出すために、子供たちはオンライン会議の日程を学校で調整し、家庭でオンライン会議を実施しました。

授業と家庭での学びを連動させることで協働的な学びが家庭でも行われています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

学習内容の定着を図るために、1人1台端末を活用した家庭学習の取組
～益城町立飯野小学校～

- 学習支援ソフトを活用した、家庭学習課題の配付と回収、定着状況の確認
- 子供たちが取り組みやすい課題の準備



【ICT端末を活用した家庭学習の様子】

ICT端末を活用した家庭学習の内容として

- その日に学んだことを確認する（定着を図る）ための課題
 - いつでも学ぶことができる課題
 - コロナ禍等において、学校でできない活動（動画の提出等）
- などがあり、各学級において、担任を中心に効果的な課題を設定し、学力向上に向け取り組んでいます。

提出された課題は、教師の端末でいつでも確認ができ、指導に生かすことができます。

また、授業においても、ICT端末を効果的に活用し、子供たちも意欲的に取り組んでいます。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用した家庭学習で既習内容の定着を図り、授業につなげる取組 ～八代市立文政小学校～

- 算数等の学習における、ICTを活用した家庭での既習内容の定着・確認
- 子供たちが既習内容を身に付けた状態で授業に臨むための、フォローアップ課題の提示と活用



①小6算数「分数×分数」「分数÷分数」の授業において、既習内容である「約分」の定着を図るため、本学習に入る前に「約分」の課題を配信します。

取組中	2 / 4	2 / 4	2 / 4	100%
提出済	0 / 4	4 / 4	4 / 4	93%
提出済	4 / 4	4 / 4	1 / 4	87%
提出済	4 / 4	4 / 4	4 / 4	83%

②教師が設定した点数に到達していない場合は、フォローアップ課題や確認テストが配信されるため、児童は動画を視聴したり、自分で調べたりしながら課題に取り組みます。

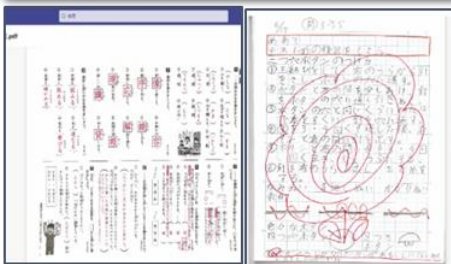
③教師は、提出状況一覧により児童の正答率と誤答の傾向を確認し、支援が必要な児童に、授業の中で重点的に関わることができます。算数を苦手とする児童の理解力の向上につながり、課題にも積極的に取り組む姿勢が見られるようになりました。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用した家庭学習の推進を図る取組 ～氷川町立竜北西部小学校～

- 子供たちの実態に応じた、ICT端末の機能を活用した家庭学習

①学習支援ソフトの活用



②デジタル教科書の活用



①学習支援ソフトの活用

課題プリントの解答や自主学習ノートの参考例などを配付し、家庭学習の推進を図っている。

②英語のデジタル教科書の活用

デジタル教科書を活用して、家庭でも発音練習を行っている。

③デジタルドリルの学習

デジタルドリルを活用することで授業内容の定着を図っている。

④継続的なタイピング練習

家庭学習で取り組むことで、情報活用能力の向上につながっている。

③デジタルドリルの学習



④継続的なタイピング練習

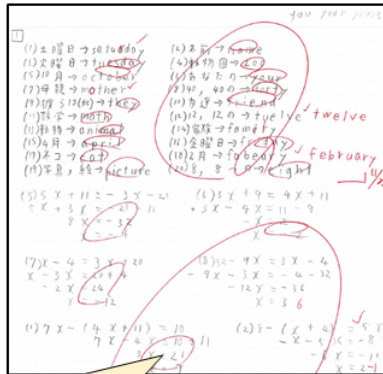
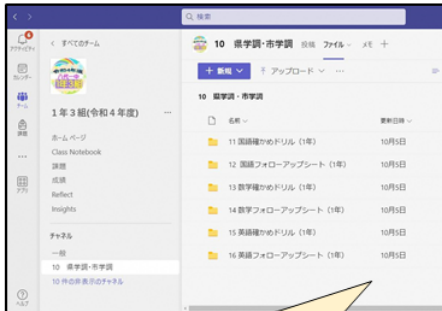


第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用した県学調の「確かめドリル」等の活用と自主学習の取組 ～八代市立第一中学校～

- 県学調の「確かめドリル」や「フォローアップシート」のICT端末への取り込みと活用
- 自分の理解度に応じて、生徒が自ら課題を選択する自主学習の取組



①学習支援ソフトを利用して、PDF化した県学調の確かめドリルやフォローアップシートをICT端末に取り込み、いつでも活用できるようにしました。

②生徒は、理解度に応じて課題を選択し、ICT端末上で開き、朝自習や家庭学習で自学ノートに書き、答え合わせ等を行い、担任へノートを提出します。

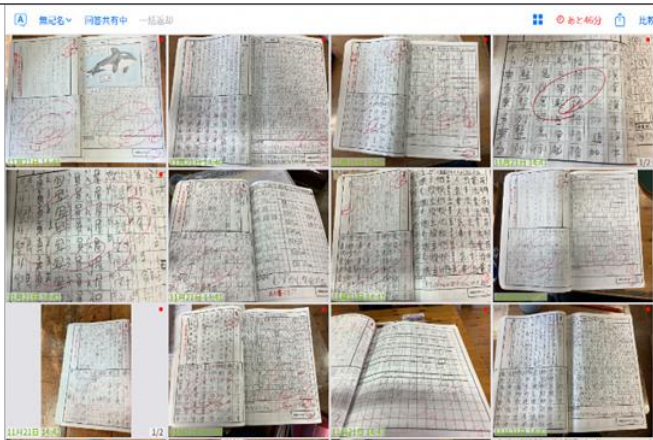
③生活ノートと家庭学習の見取りをまとめてできるように、それらを一体化したシートを作成し、一定期間実践しました。家庭学習の計画と実施状況をまとめて見取ることができます。

第5章

【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICTを活用し家庭学習ノートを共有する取組 ～芦北町立佐敷小学校～

- ICTを活用して子供が互いの家庭学習ノートを見合う時間の設定



【ICT端末の画面に共有された家庭学習ノート】

子供同士でお互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けるために、学習支援ソフトの課題提出機能を活用し、児童間で共有する取組を行っています。子供が更なる問いを見つけるきっかけにもなっています。

また、子供同士でアドバイスを出し合ったり、質問したりする様子も見られ、子供のやる気を引き出すことができるとともに、学びの質の高まりにつながっています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末持ち帰りによるドリル学習の取組 ～あさぎり町立岡原小学校～

- ICT端末を持ち帰ってのドリル学習による家庭学習の習慣化と学習内容の定着
- デジタルドリルの採点機能を利用することによる担任の業務負担軽減



【ICT端末を持ち帰っての家庭学習】

週1回、デジタルドリルの問題を学校でダウンロードし、家庭学習として取り組んでいます。

採点が自動化されるアプリの機能により、児童は自分がどこでつまづいたかをすぐに確認ができます。児童からも「やる気がでる」「よく分かる」と大変好評です。

また、児童のデジタルドリルの達成状況は、学校で担任がすぐに把握することが可能で、授業へのフィードバックにもつながっています。

全児童の解答状況を把握し、学習状況の実態を図るための手段の一つとして役立てています。

第5章 【ICTを活用した家庭学習】実践例

ICT端末を活用した「学びをつなげる家庭学習」への取組 ～天草市立河浦小学校～

- 家庭での、ICT端末を活用した授業（話し合い活動）の事前準備
- 家庭で撮影した動画（音読やリコーダーの練習）を用いた、授業中の交流

【社会科の授業の様子】



次のことを表にまとめてみましょう。
教科書P148～149や資料集を参考にしてみましょう。
輸出と輸入の輸送手段は？
また、それぞれの輸送手段の長所と短所は？

輸送手段	長所	短所
船	一度に大量に荷物を運ぶことができる	航空機より時間がかかる
航空機	小型の荷物を短時間で運べる	費用がかかる
トラック	荷物の積み込みがしやすい	道路がごむと運れるかもしれない
鉄道	決められた時間どおりに荷物を運べる	線路が敷かれた場所しか運べない

授業時間内には話し合い活動に集中できるように、児童は家庭学習でICT端末を用いて事前準備をしておきます。その際、着目した部分に印をつけておくことで、授業中に資料をそのまま提示して話すことができます。

また、音読の様子やリコーダーの練習を家庭で撮影し、それを見返して気を付けるポイントを出し合うこともあります。

このように、「学びをつなげる家庭学習」の促進のため、ICT端末で課題の工夫を行っています。

社会科「日本の工業生産の貿易と運輸」の授業で、輸送手段についてのメリット・デメリットを表にまとめている様子です。家庭で事前に見て、着目した部分に印をつけた資料を、授業でそのまま提示して、話し合い活動を行っています。

柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

算数科における少人数指導の拡充及び習熟度別指導の取組 ～ 山鹿市立山鹿小学校～

○学年で算数の時間をそろえる工夫による、学年部による習熟度別指導の実施



【算数科における少人数指導の様子】

算数科において、少人数指導担当を2名とし、2年生以上の学年での算数少人数指導を実施しています。少人数指導を実施することで、算数が苦手な児童も少人数教室で生き生きと学びに向かう姿が見られ、学習意欲の向上につながっています。

5年生においては、学習の難易度が上がり、学習内容も多いことから、4学級の担任と少人数指導担当者2名で6コースに分け授業を実施しています。各コースで学習内容は同じですが、授業の進め方や下学年の復習からの導入など、授業展開は、各コースで異なるものとしています。

柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

習熟度に応じた問題を活用し、個に応じた指導につなげる取組 ～ 山鹿市立鹿本中学校～

○数学科における生徒の習熟度に応じた問題の作成とその活用



【難易度の違う問題にチャレンジする生徒たち】
リトルティーチャーが解き方が分からない生徒に説明しています。

教師が習熟度に応じた問題を作成し、授業の中で提示する中で、生徒は難易度の違う問題の中から自分で選択して取り組んでいます。

また、リトルティーチャーを活用することで、理解が進んでいる生徒は周りの生徒に説明し、解き方が分からない生徒は、個別に質問をしながら問題に取り組むことができるようにしています。

家庭学習では、ICT端末を活用し、教師が作成した基礎と発展の2種類の課題から生徒が自分で選択して解くことができるようにしています。

柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

担任と担任外の教師の複数体制による基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組 ～ 苓北町立坂瀬川小学校～

○担任と担任外の教師の複数体制による基礎的・基本的な学習内容の定着を図る「チャレンジタイム」の実施



【チャレンジタイムの様子】

毎週火曜日の朝自習の時間に、担任と担任外の教師（管理職を含む）の複数体制で基礎的・基本的な学習内容の定着に向けて学校総体として取り組んでいます。

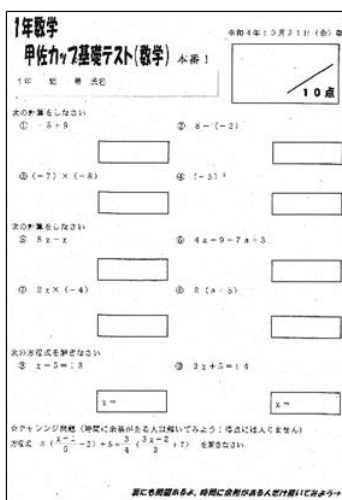
国語科・算数科を中心に、1学期には前学年の内容、2学期からは現学年の内容の県学調「フォローアップシート」や「たしかめドリル」等に取り組んでいます。

児童一人一人の定着の状況に合わせてきめ細やかな指導を組織的・継続的に行うことで、学習内容の確実な定着を目指しています。

柱1 【読み・書き・計算の習得の徹底】実践例

学習への意欲付けと基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組 ～ 甲佐町立甲佐中学校～

- 「生徒自身による家庭学習の計画立案」や「クラスマッチ形式の定着確認テスト」による学習意欲の向上
- 授業・家庭学習・定着確認テスト・補充指導を連動させた学習内容の定着



【甲佐カップの様子】



【町の支援員による夏季学習会（開講式）】

授業で学習した内容について、生徒自身が家庭学習の計画を立て、学習への意欲付けを行っています。

また、学級全体で学習への意欲を向上させるために、基礎的・基本的な学習内容を中心に、学期に1回程度、クラスマッチ形式の定着確認テスト（甲佐カップ）を実施しています。生徒会が主体となって取組を呼びかけ、生徒は、事前に提示された課題に繰り返し取り組みます。

さらに、夏季休業中は町の支援員による学習会を実施し、補充指導を行っています。

柱1 【定着確認の徹底】実践例

学力向上への意欲を高め、学習内容の定着を図るGU大会（学力アップ大会）の取組
～ 宇城市立不知火中学校 ～

- GU大会（学力アップ大会）の実施
- 生徒の学力向上への意欲を高め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組



【大会を周知するポスター】



【優勝カップ】



【GU大会（学力アップ大会）の様子】

- 毎月、5教科のうち1教科を取り上げ、以下の手順①～⑥で、教科担当だけでなく、全職員が共通理解しながら取り組んでいます。
- ①大会本番の1週間前、教科担当から配付された問題を解きます。
 - ②初回の点数を記録し、それをもとに本番の目標点（個人）を決めます。
 - ③大会本番までの1週間、朝自習や家庭学習で問題を繰り返し解きます。
 - ④前日までの学習をもとに、本番前に最終目標点（個人）を決めます。
 - ⑤大会本番の問題を解き、採点します。
 - ⑥初回からの伸び率と平均点の各1位のクラスに生徒会から優勝カップを贈呈します。

柱1 【定着確認の徹底】実践例

「学力向上タイム」と「家庭学習」を連動させ、学習内容の定着を図る取組
～ 玉名市立築山小学校 ～

- 学力向上タイムの帯時間の設定
(本校の学力に関する課題の把握と課題改善に向けて取り組む重点期間の設置)
- 「学力向上タイム」と「家庭学習」を連動させることによる学習内容の定着

【重点期間における日課表と学力向上タイムの様子】

健康観察	8:15	～	8:25
1校時	8:25	～	9:10
2校時	9:20	～	10:05
3校時	10:15	～	11:00
4校時	11:10	～	11:55
学力向上	12:00	～	12:30
給食	12:30	～	13:20
昼休み	13:20	～	13:50
5校時	13:50	～	14:35

12時から12時30分までの30分間、全校一斉の「学力向上タイム」を位置づけました。
校内放送を入れ、学校全体が静かに落ち着いた状況で取り組めるようにすることで学力の定着を図っています。



全学調や県学調からの課題を全職員で分析・共有し、課題改善に向けた重点期間を設けています。その期間中は特別な日課とし、4時間授業終了後の30分間を「学力向上タイム」と位置づけ、全職員が指導・支援に入り、複数体制で児童の見取りを行っています。

家庭学習では、全学調や県学調で間違いが多かった観点・領域の問題の類似問題を予め解いています。その後「学力向上タイム」で解き方のヒント等を教師が示しながら、解説を加えることで、学習内容の定着を図っています。また、「学力向上タイム」を実施するにあたっては、各学年部で児童の学習状況を把握し、問題の解き方・答え方をはじめ、効果的な指導方法を検討するなど、情報交換を行いながら学校総体で取り組んでいるところです。

柱1 【定着確認の徹底】実践例

放課後の学習時間や学力充実タイムを活用して学習内容の定着を図る取組 ～山鹿市立三玉小学校～

○放課後の学習時間「パワーアップタイム」や「学力充実タイム」における補充学習による学習内容の定着



【学力充実タイムの様子】

授業で学習した内容から、特に身に付けてほしい基礎的・基本的な学習内容の定着に向けて、放課後の学習時間「パワーアップタイム」や「学力充実タイム」を設定し、補充指導を行っています。

「パワーアップタイム」は1週間に2回、国語と算数を中心に取り組んでいます。

担任外の職員と一緒に指導に入り、複数体制で指導を行うことで、個別指導の充実を図り、全ての児童に学習内容が定着するようにしています。

柱1 【定着確認の徹底】実践例

学校総体とした、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組 ～菊池市立旭志中学校～

○全学年共通問題50問テストの実施
○事前に課題を生徒に提示することによる、家庭で学習する習慣の定着と、教え合い活動を通じた基礎的・基本的な学習内容の定着

授業で学習した内容から、基礎的・基本的な内容を教科担当が精選し、5教科の内容で全学年共通問題50問テストを作成します。

生徒は、提示された課題に2週間前から取り組みます。また、その際、目標点数を記入し、意識づけを行うことで、クラスの中で、教え合い活動が活発になり、全員で、学力向上に向けて取り組む姿が見られています。

全員の頑張りを認めながら、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っています。



第1回 英単語大会

※自分がチャレンジするものに○をつけてください。

満点賞(○) 目標達成賞() 50点

テストを終えての感想

テストを終えて、クラスで問題を話し合いながら覚えたりして覚えたからよかったし、楽しかったです。

【全学年共通問題50問テストに取り組む様子とテストを終えての生徒の感想】

柱1 【定着確認の徹底】実践例

異学年交流を通じた学力充実タイムにおける基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組

～阿蘇市立一の宮小学校～

○学力充実タイムの設定（3年生以上の学年で、熊本県学力・学習状況調査問題で、過去に課題があった問題に取り組む）



【学力充実タイムの様子】

取り組んだ問題を、職員で採点したのち、児童に返却します。やり直しの時間には、担任と6年生の児童8～10名程度がそれぞれの学級に入り、下級生の質問に個別に答えたり、説明したりして下級生の支援にあたっています。

多くの人数で支援にあたることができるとともに、6年生にとっても自分の理解を深めたり、相手に応じた伝え方を考えたりすることができています。このことは、「YOU トーク」（一人一人を大切に作る対話活動）の異学年版としての実践にも繋がっています。

柱1 【定着確認の徹底】実践例

繰り返しの学習による学習内容の定着を図る取組
～水俣市立水俣第二小学校～

○授業・家庭学習・夕活動の時間（帯の学習時間）に、繰り返し同じ問題に取り組むことによる学習内容の定着



【授業冒頭で、既習の学習内容を繰り返し行う様子】

授業冒頭には、既習の学習内容（現在学習中の単元ではなく、以前学習した内容）をフラッシュカードで繰り返し振り返ることで、学習内容の定着確認を徹底させています。

家庭学習でも、県学力・学習状況調査等で課題となった領域の類似問題に繰り返し取り組ませることで、学習内容の定着を図ります。

夕活動では、全校一斉でプリント学習に取り組むことで、課題の改善と学習内容の定着を図ります。

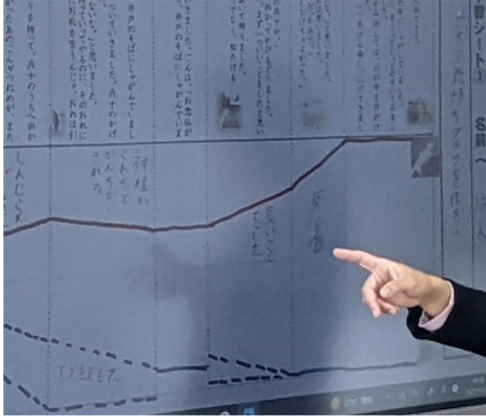
【夕活動の計画（1学期）】

- 月：漢字タイム（前学年プリント）
- 火：新聞タイム（新聞ワークシート）
- 木：視写タイム
- 金：課題克服タイム（当該学年国語）

柱1 【読解力向上の取組】実践例

読み取ったことを可視化して、互いの考えを伝え合う取組 ～菊池市立隈府小学校（4年国語科）～

○文学的文章の学習における、心情曲線を活用して、考えの違いを明らかにした話合い



【心情曲線の活用】

「読解力」育成に向けた鍵となるのが、考えと根拠を分けて発表させることと捉えています。「ごんぎつね」の3の場面では、児童全員が、ごんの気持ちの変化を読み取り、それぞれのシートに、ごんと兵十との心の距離を心情曲線に表現していきました。

全体の話合いで、代表児童が表した心情曲線を基に「ここでごんは必死だった」と考えを語り出しました。教師の「教科書のどこから？」という問い返しに「だって『これはしまった』『いわし屋にぶん殴られ』『次の日も次の日も』とあるから、ごんの必死さが伝わってくる」と叙述を根拠にしなが、自分の考えを伝える姿がありました。

考えを心情曲線で可視化することで、根拠とのつながりの妥当性を学級全員で吟味しています。

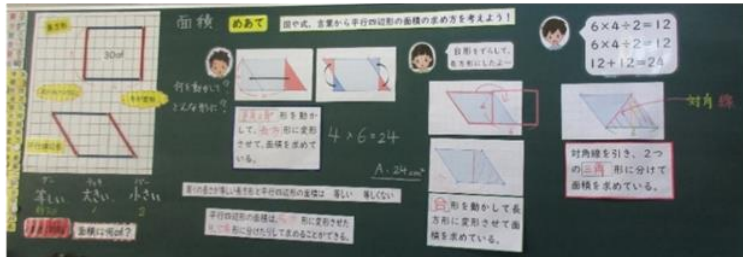
柱1 【読解力向上の取組】実践例

授業における学び合いの充実を図りながら、読解力向上を目指す取組 ～八代市立植柳小学校～

○他の意見や資料等の様々な情報を収集して解釈し、自分の意見を述べる活動の充実



〇〇さんの直角三角形をずらすやり方と□□さんの直角三角形をまわすやり方は、平行四辺形を長方形に変形して面積を求められるようにした考え方になる。
私の考え方は、、、



【算数科の学習の様子】

算数科の学習においては、既習事項を生かして自力解決する授業展開だけでなく、他者の考え方の一部が示された「図や式、言葉」などの情報を活用して、自分なりに解釈し、自分の意見を述べることに重点をおいて授業づくりを行っています。他教科においても同様に、読解力育成を意識した授業づくりを行っています。

柱1 【誰一人取り残さない学びの保障】実践例

学習のルールや学び方の共通理解と基礎学力の定着を目指す取組 ～ 和水町立三加和小学校～

- 学習規律集会での児童による学習のルールや学び方の提示
- 学習の基盤作りに向けた、ぴかぴかノート展の開催

学習規律集会では、「話を聞くときは、発表する人の方を向いて聞く」、「全員が、ゲー、チョコキ、パーで意思表示（自信があるときはパーで挙手する等）しながら必ず手を挙げる」などの約束の確認をしました。学習規律集会の運営は毎年5年生が担当し、運動会実施後、学習に落ち着いて取り組むことができる6月に実施しています。

また、毎月、ぴかぴかノート展を実施し、次の項目で評価しています。

- ①丁寧さ ②定規の使用 ③めあてとまとめ ④間違いのやり直し



【学習規律集会の様子】



【ぴかぴかノート展】

柱1 【誰一人取り残さない学びの保障】実践例

学びを支える「大道ベーシック」の取組 ～山鹿市立大道小学校～

- 学習の基本となる学習態度（「大道ベーシック」）の提示と「学び合い言葉」の掲示
- ベーシック集会での、児童等による授業のロールモデル（姿勢・書き方・発表）の提示



【ベーシック集会で「学び合い言葉」を使った授業の様子を見せる6年生】

「大道ベーシック」は、10の項目があります。授業中の姿勢・聞き方・学習用具の使い方・発表の仕方など、学習の基本をリーフレットにまとめて、各学級に配付して取り組んでいます。

児童集会であるベーシック集会（月2回）では、授業のロールモデルを児童が紹介し、取組が全校児童に徹底するようにしています。

学年の初めは、話の聞き方を重点的に学びます。二学期は、高学年の子供の「学び合い言葉」を使った授業のロールモデルを見て学びます。ベーシック集会後、積極的に「学び合い言葉」を使って授業に取り組む子供の姿が見られ、高学年の良い授業態度が低学年に広がっています。

高学年が低学年のICT活用スキル育成をサポートする取組
～ 水上村立岩野小学校 ～

- 「学習の基盤となる資質・能力」である情報活用能力の育成
- 高学年が低学年へサポートするスタイルによるICT活用スキルの習得



【ICTタイムの様子】

週1回、業間の時間を「ICTタイム」として位置付け、低学年の児童がICT端末を使い、撮影したり、ファイルへの書き込みをしたりする際、高学年の児童が先生役として、サポートするようにしています。

この時間でICT活用スキルを習得することで、教科等での効果的なICT活用につながっています。

低学年の児童にとっては、高学年のお兄さん、お姉さんに教えてもらえるという安心感をもって活動することができ、ICT活用スキルの確実な習得につながっています。

また、高学年の児童にとっても、自分のスキルを確認することにつながり、低学年、高学年ともにICT活用スキルが向上しています。

柱2 【学校運営に関する助言の強化】実践例

具体的な例を示し、各学校での授業改善の活性化を図る取組
～ 玉名教育事務所～

- 管内校長会等における、授業導入（めあての提示まで）の具体例の提示
- 各学校の校内研究での具体例の活用

子供の主体的な学びの姿を目指すために、めあての提示までを国語の教材を例に具体的に示すことで、問題（話題）提示を行い子供に問いや関心を持たせることや、本時の課題解決に向けての見通しを子供達から引き出すことの重要性を説明しました。

具体例を示して説明することで、子供の主体的な学びを引き出すめあての提示についてのイメージを共有することができています。今後、各学校で教員に説明したり助言したりする際の活用を目指しています。

今後の取組について
「めあてづくり（問題・話題提示）例（国語）」

自分の分を食はずに子供達に食べさせた理由は？

「僕」は我慢できないほどおなかがいっぱい

「母は僕たちに食べさせて、自分ばかり食べてました。」

「この文章から疑問に思うことは？」

1

今後の取組について
「めあてづくり（手立て、方法を引き出す）例（国語）」

戦争についての描写に注目したらどうか。

「母」の描写。

「僕」の描写。

「僕」と「母」がなぜこのような行動をしたのかを考えると、どこに着目して読んだらいいかな？

2

今後の取組について
「めあてづくり（手立て、方法の共有）例（国語）」

僕や母や戦争について書いてあるところに注意して読んでみよう。

「僕」と「母」の行動の理由を、「僕」や「母」や「戦争」についての描写から確かめよう。

みんなの言葉をまとめると今日のめあてはこうなるかな。

3

柱2 【授業観察の習慣化】実践例

校長による授業観察での学びを、教職員向けの便りで全職員に広げる取組
～ 芦北町立内野小学校～

内野の学び「ていーちゃーず」

「江戸幕府の政治と安定」 フラッシュ問題

【導入】・「三保松原」（今日の担当より）→地図帳で探す一挙手。
フラッシュ問題（言葉だけでなく図などの資料を入れて）

学習問題「どうして江戸幕府は260年も続いたのだろうか。」
めあて「江戸時代が260年続いた理由を考えよう。」

【考える】・「主張」（武士・大名の政策があったからなど）「根拠」（事実）
「理由」（政策の意図）を にまとめる。（3色の枠内に）

これまでに学習した（根拠）

（前に班で？調べた内容、これまでのノート、資料集などを参考にまとめている。）→時間を延長。（提出した人は友だちの提出した考えを見る。）
・発表する。（メモについて指示）

①武士・大名 「…佐敷城も一國一城で…」 「…反抗する力を失われた。」先生「どういことか？」 「…外様を外に…」 他数名。
②百姓・町民 「五人組で…」 など。

③外国 キリスト教の禁止。信者が… 他の子「鎖国じゃない？」先生「こういうのを言いたいだろうと言いつけてくれる人」（3名ほど）…（後略）

【深め合う】・参考になった意見を話す。

表現力向上のために、「主張」「根拠」「理由」を明確にして自分の意見を主張すること、友だちのいいな、付け加えたいなと思う考えをメモしながら聞くことを指示して進められました。主張や根拠は選択できるようにキーワードがカードに示されており、厳しい子にも有効な工夫です。どの子も発表しなければという思いも募る流れでした。さんの考えに違和感が出された時に「こういうのを言いたいんだろうな」と言い換えてくれる人？」と返されました。考えは言いつけではなく参考になった意見も出たうえで、最終的に自分の考えをまとめ、伝え合えたことがすばらしかったです。さんが「佐敷城」を話題にしたことも歴史と自分たちの生活が繋がっていることを知らしめてくれたようでした。

- 校長による計画的な授業参観
- 授業参観での気づき・助言のまとめ『内野の学び「ていーちゃーず」』（A4判）の発行と教職員への配付

今年度、重点的に身に付けさせたい3つの資質・能力である「かかわる力」「表現力」「実行力」に関連した内容を「ていーちゃーず」に青文字で示しています。

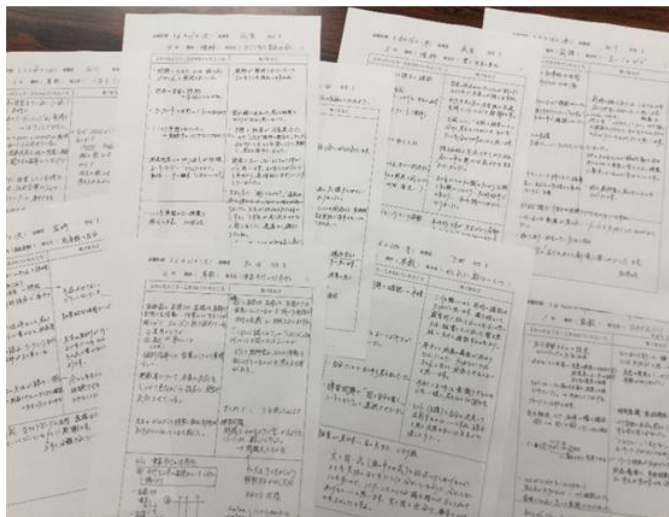
また、授業の様子がわかる写真や板書、児童のノート等も記録しています。

参観後、校長が授業者との対話を通して気付いたことや改善点等も示してあり、他の教職員の学びにもつながっています。

柱2 【授業観察の習慣化】実践例

管理職による授業参観の際の参観シート活用の取組 ～あさぎり町立須恵小学校～

○校長による毎日の授業参観と「参観シート」での指導・助言による授業改善



【参観シート】

「参観シート」（A4用紙1枚）は、以下の3項目で構成されています。
「よかったところ・工夫されていたところ」によい点、「気付き等」に改善すべき点や具体的な方法等、「校長から」にメッセージが書かれています。
具体的なアドバイスが記されていることから、授業者にとって、授業を振り返り、今後の授業改善に参考となるシートとなっています。
この「参観シート」は、毎月30枚ほどのペースで作成されています。
ポジティブなアドバイスと温かいメッセージで授業者からも励みになると好評です。

柱2 【校内研修内容の重点化】実践例

定期テスト問題の改善を通して、指導と評価の一体化と授業改善を図る取組 ～宇土市立鶴城中学校～

- 全国学力・学習状況調査等の問題を参考にした定期テスト問題の改善による指導と評価の一体化
- 定期テスト問題の考察・議論による「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善



【教科部会で定期テストの問題について議論する様子】

大規模校の強みを生かし、校内研修の中で教科部会を開催しています。
全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査等の問題を参考に、基礎的な「知識・技能」を習得することに加え、実際の場面においても効果的に活用できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する問題づくりを目指しています。
定期テストの問題について職員同士が議論することを通して、これまでの学習指導を振り返り、今後の授業改善のポイントについて共通理解を図っています。
また、文書を配付して保護者の理解を得ながら、取組を進めています。

柱 2

【校内研修内容の重点化】実践例

誰一人取り残さない授業づくりを目指した校内研究の取組 ～ 山鹿市立鹿本中学校 ～

- 誰一人取り残さない授業を目指した授業づくりに向けた校内研修3部会での視点の設定
- 全職員での実践の共有から、自らの授業に生かす取組

3つの部会の活動内容について、校内研修の時間に、それぞれの実践を発表し共有することで、自分の実践に生かすことができるようにしています。

授業力向上や個に応じた指導・習熟度別指導に生かすことで、誰一人取り残さない授業づくりを目指しています。

- ICT活用部会（ICTの効果的な活用・家庭学習との連動）
- 授業（学習）支援部会（誰一人取り残さないための授業づくり・学習支援）
- 家庭学習部会（家庭学習と授業との連動・到達度に応じた学習の工夫）

<課題>

- 「学ばせよう」とはしているが、「学ぼう」とする意識向上につながっているとはまだ言えない。
- こちらが想定する難易度と生徒の学力に「適正ライン」が見えていない。
→ 分析不足
- 家庭学習に頼る学習、活用できない書き並べる、まとめたつもりの学習改善。



【各部会の実践を共有し、自分の実践へと生かす校内研修の様子】

柱 2

【校内研修内容の重点化】実践例

学年部ごとの授業研究会実施による研究授業の機会の確保 ～ 合志市立西合志中央小学校 ～

- 低・中・高学年の3部会に分かれての授業研究会により研究授業の機会の確保
- 3部会の研究授業の同日別時間実施で授業参観の機会を増やす取組



3部会に分けることで、部会の全員が教室に入って授業を参観することができます。また、時間をずらして実施することで、他部会の授業参観も可能です。

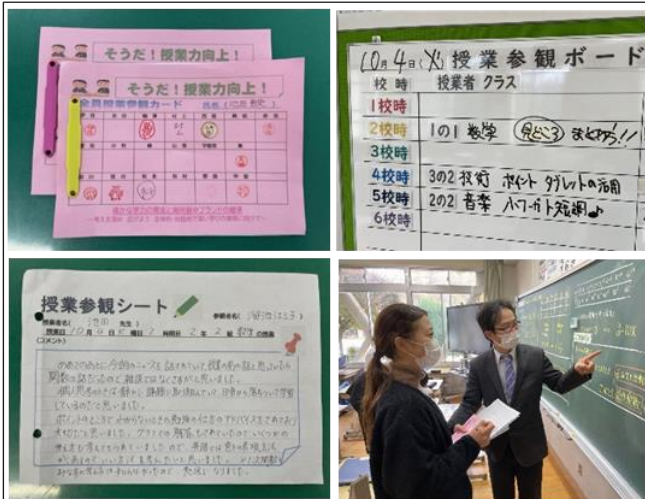
事前研、研究授業、事後研を、3部会に分けて行います。
各部会をオンラインでつなぎ、内容を報告し合い、全体で共有を図ります。

各研究授業の様子や各部会の話合いの内容は、後日「校内研便り」でも伝えます。
3部会を基本にしなが、学校全体で共通理解、共通実践を行うことも大切にしています。

柱2 【校内研修内容の重点化】実践例

校内研修の「授業を変える」部会による、教師の指導力向上を目指した取組 ～ 南阿蘇村立南阿蘇中学校 ～

- 「授業参観ボード」を活用した自由な時間に授業参観を行うことのできる仕組みづくり
- 「授業参観シート」を活用した感想や反省を積極的に伝え合う活動による教員の学び合い



【授業参観カード（シート）やボードを活用した授業参観】

スタンプカード形式の授業参観カード「そうだ！授業力向上！」を活用し、互いの授業を気軽に参観できるよう工夫しています。

また、職員室には「授業参観ボード」を設置し、その日ぜひ見てほしい授業と参観の視点や見どころを記入します。

参観後は、「授業参観シート」にコメントを書き込み、授業の良かった点や改善点を授業者に伝えられるようにしています。

参観をとおして、生徒の何気ない発言の活かし方やICTの活用などについて学び合うとともに、授業について直接意見を交わす教員の姿が増えるなど、授業改善への意欲が高まっています。

柱2 【校内研修内容の重点化】実践例

教師の指導力向上を図る校内研究（授業研究会）の取組 ～ 御船町立御船中学校 ～

- 生徒が参加する授業研究会の実施
- 外部から助言者を招いた実践報告会の実施



【生徒が参加する授業研究会の様子】

御船中では“御船中For the future プラン”と称し、「学力の保障」と「進路実現」を重点事項と捉え、夢の実現に向けて努力する生徒の育成（学力向上）を図る等の校内研究を推進しています。

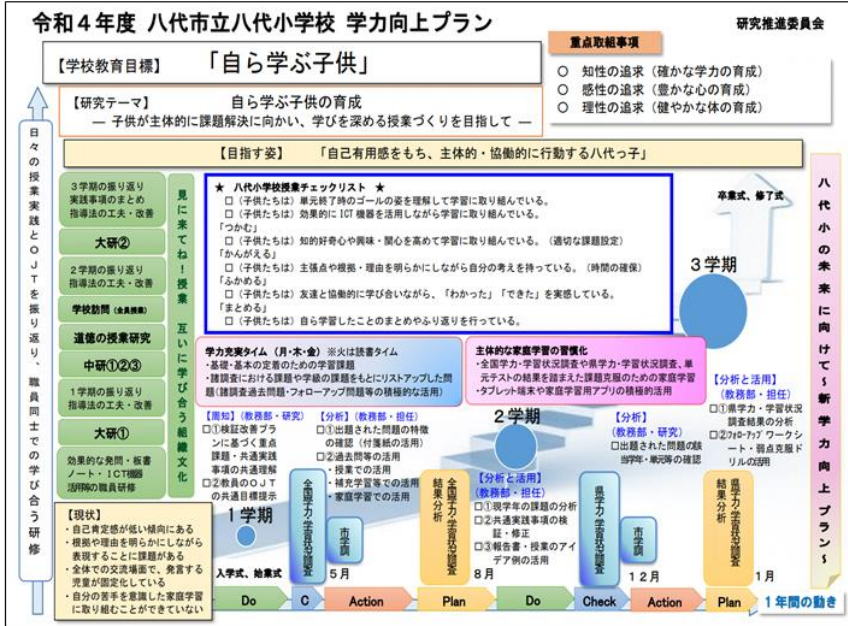
そのために、全職員が公開授業を実施し、年2回は、全職員で授業を参観します。授業後には、学習者である生徒も交えて討議を行う授業研究会を実施しています。

加えて、年度末には外部から助言者を招き、教科ごとに取組を検証する実践報告会も実施しています。

生徒の意見、外部助言者及び職員間の意見を参考に、目指す生徒の育成につながる授業改善を図っています。

「八代小学力向上プラン」に基づいた授業実践の取組
～ 八代市立八代小学校～

- 学校教育目標の達成に向けた子供の学ぶ姿を大切にしたワークショップ型での研修の実施
- 相互参観授業等での日々の授業実践の振り返りとOJTによる職員同士での学び合う機会の設定



「八代小学力向上プラン」に基づき、授業実践を重ねています。年間一人1回以上、学習構想案を書いている研究授業を実施しています。授業研究会では、子供の学ぶ姿を大切にしたワークショップ型での研修を行っています。また、前期・後期に各1回以上の相互参観授業を行い、管理職からの助言の他、職員間でも感想や気づきを伝え合っています。他の職員の授業を見合う場を設定しながら、職員全員が校内研修のテーマに沿った授業の共通理解、共通実践を行うことで、子供たちの学力向上を目指しています。

授業力向上を図るためのインターバル研修による授業改善の取組
～ 球磨教育事務所～

- 管内の教員の授業力向上を目的とした球磨教育事務所による「管内指導主事活用事業」の実施
- 学校の要請等に応じて再度訪問を行うインターバル研修による継続的な支援



【管内指導主事活用事業での研究会の様子】

各学校からの要請を受け、指導主事が授業参観を行ったのち、授業者との授業研究会において、改善すべき点等について指導・助言を行います。その後、数か月の期間をおいて再び訪問し、その教員の授業を参観します。前回指摘した課題の改善状況を確認した上で、再度指導・助言を行い、教員の授業力向上を図るようにします。球磨教育事務所では、教員の授業力向上に向け、継続した指導・助言を行うことを大切にしています。

柱 2

【校内研修内容の重点化】実践例

共通実践事項の確実な実施のための校内研修の取組 ～ 上天草市立中南小学校 ～

- 事後研究会における研究テーマの視点に沿った協議のための協議項目の絞り込み
- 研究協議を通しての課題の洗い出し及び次の授業への共通実践事項の共有化

資料①

資料②

資料③

学習計画
ゴールを示す。
→「ゴールにたどりつくためには、どんな力をつけていけばいいか。」を問う。
→子どもたちの意見から、大まかな学習計画を決める。

視点2 課題設定の工夫

ふり返りの記述をもとにした意図的指名
→本時の学習内容の確認(導入)。
→次時の見通しを持たせる。(終末)

視点3 ふり返りの工夫

共通実践事項を決めるだけでなく、その時間のうちに、共通実践事項に必要な準備物を洗い出し、役割分担して作成まで行う。

事後研究会では、研究テーマの視点に沿った手立ての有効性に絞って協議をしていきます。
〔資料①〕グループワークにおけるワークシートの形態を工夫し、授業の課題が明確になるようにしています。
〔資料②〕その課題に対する今後の対策を立てています。
〔資料③〕協議で出された対策を基に、研究主任が共通実践事項をまとめ、共通実践する項目を決定し、校内研修で周知を行います。
事後研究会ごとに、共通実践事項の決定と周知があり、授業実践の質を高めることができています。

柱 2

【校内研修内容の重点化】実践例

各学校の実態や課題に応じた校内研修内容の重点化のための教職員向け学校支援の取組（スクールサポート） ～ 熊本県立教育センター～

- 具体的な課題解決に向けた校内研修の実現を目指した研究概要の事前把握
- 各学校の要望や課題に寄り添った取組実践の価値付けや後押し



【スクールサポートによる研修の支援の様子】

各学校の実態や課題に応じた校内研修の推進のために、要請に応じて、学校に出向いたり、オンラインでつないだりして校内研修のサポートを行います。

具体的には、教職員向けの講義や演習、授業研究会での指導・助言等を通して、校内研修テーマや育成を目指す資質・能力の方向性、共通実践事項の価値付けをしています。さらに、授業における取組の具体的な助言等を行いながら、課題解決に向けた校内研修の実現を目指して学校と共に考えています。要請に応じて継続支援を行い、複数回実施することで、学校へのサポートも手厚く行っているところです。